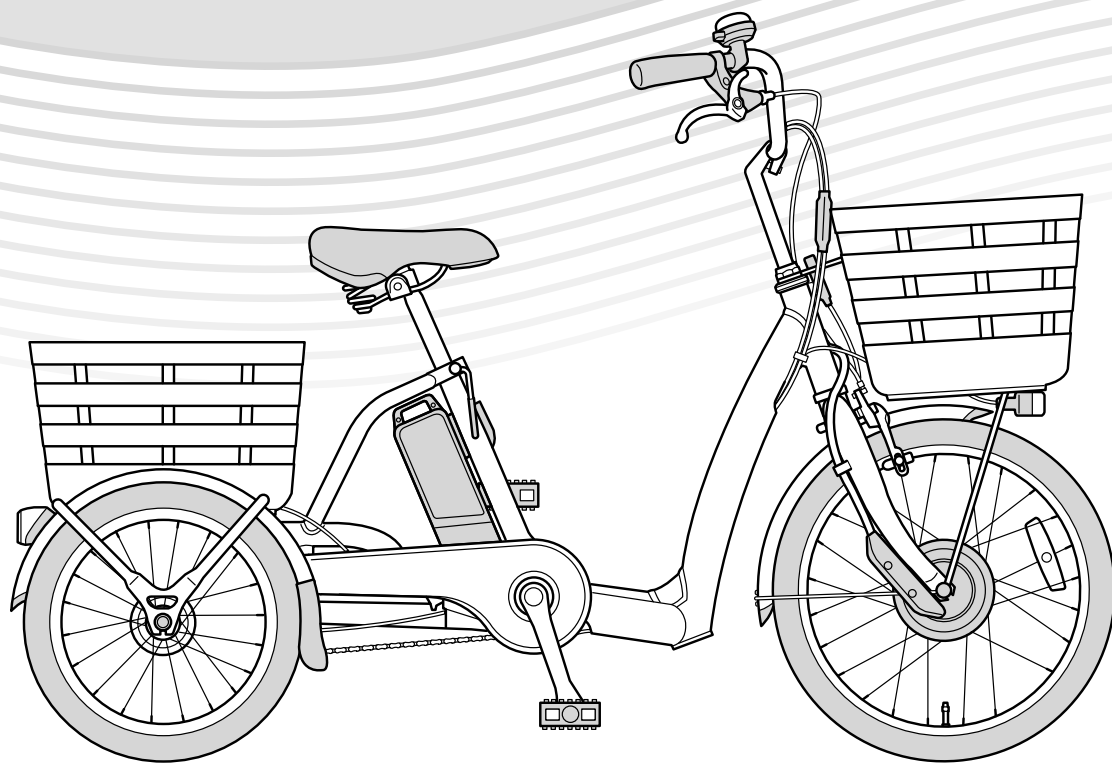


電動アシスト自転車取扱説明書 (三輪自転車)

お願い

- 納車時に販売店から、電動アシスト自転車の使用方法について十分に説明を受けてください。
- 本書／点検・整備の記録と保証書は、紛失しないよう大切に保管し、ご活用ください。
- 盗難補償には加入手続きが必要です。盗難補償書に記載の期日までにホームページからオンライン登録するか、またはロビンフッド手帳(保証書・盗難補償書)に記載のQRコードから携帯電話でオンライン登録する。またはロビンフッド手帳のブリヂストンサイクル盗難補償カード(ハガキ)に必要事項を記入の上、投函してください。
- 電動アシスト自転車を他の人にお譲りになる場合は、取扱説明書も一緒にお渡しください。
- 保証書は「販売店名、お買い上げ日」などの記入を確かめて販売店からお受け取りください。記入がもれている場合は、販売店にご請求ください。
- お求めになった電動アシスト自転車にあてはまらない内容も含まれますのでご容赦ください。
- 取り扱いがわからないときは、お買い上げの販売店にご相談ください。



自転車のイラストは代表例です

もくじ

はじめに

前書き	4
-----	---

安全のために

電動アシスト自転車を安全に使用するために	5
自転車を安全に乘るために	7
バッテリーや充電器を使うとき	17
自転車の交通ルールについて	21

電動アシスト自転車について

三輪車の構造と特徴	23
傾斜や凹凸のある路面での三輪車の特性	25
電動アシスト自転車のしくみ	26
各部の名称	27

バッテリーについて

バッテリーの特徴	28
バッテリーの交換について	29

充電しましょう

充電モードについて (B400バッテリーのみ)	31
充電に適した環境	33
バッテリーの脱着	34
充電のしかた	36
充電状態の見かた	37
充電時間の目安	38

乗る前に

乗車前点検	40
バッテリー残量の確認	48
走行モードについて	51

乗りましょう

発進のしかた	55
ブレーキ操作のしかた	57
変速のしかた	58
前照灯について	60
メインスイッチの表示機能	62
回復充電機能について	63
スリップ制御機能について	70
荷物の積載	71
アシストが作動しない環境	72
駐輪のしかた	73
リモコンFロック(前輪錠)の使いかた	75

お手入れと保管

お手入れのしかた	78
保管のしかた	81






ごぞんじですか？

もしもこんなときは	83
定期点検／ 普通自転車点検整備済みTSマーク	92
保証制度／基準適合標章(TSマーク)	93
防犯登録／盗難補償／保険について	94
スペアキーについて	95
点検・整備の記録	96

前書き

このたびは、当社の電動アシスト自転車をお買い求めいただき、まことにありがとうございます。電動アシスト自転車は、自転車に乗れる方でしたら手軽にお乗りいただくことが可能です。ただし、普通の自転車と異なる部分もありますので、乗車される前には必ず、本取扱説明書をお読みいただき、安全・快適にご使用ください。お子様がご使用になる時は、必ず本書を保護者の方がお読みになっていただき、正しい乗り方をご指導くださいますようお願いいたします。

本取扱説明書では、正規の取り扱い・点検・整備に関して必要な項目を次のような記号で区分し表示しております。

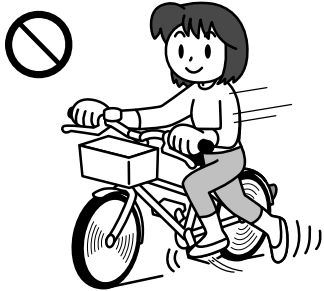
	安全にかかわる注意情報を意味しています。
 警 告	取り扱いを誤った場合、死亡または重傷に至る可能性が想定される場合を示しています。
 注 意	取り扱いを誤った場合、傷害に至る可能性または物的損害の発生が想定される場合を示しています。
要 点	正しい操作のしかたや点検整備上のポイントを示しています。
	安全上してはいけない「禁止」内容を意味しています。
 強 制	この表示の欄は、「使用者に必ず実行していただく」内容です。

電動アシスト自転車を安全に使用するために

警告

けんけん乗りは行わない

走り出す前に必ずサドルに座ってから、発進してください。けんけん乗りをすると、電動アシストが作動することで自転車だけが前に進み、体を取り残される場合があり、転倒や接触事故につながるおそれがあります。



凹凸の差が大きい場所は走らない (歩道の段差や、溝など)



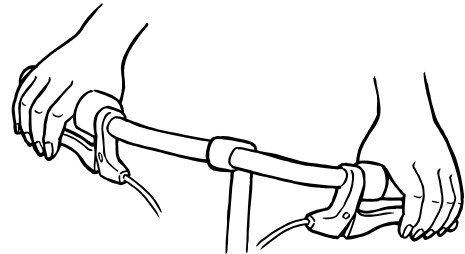
- 車体や車輪、電動アシストシステムが損傷することで転倒し、けがをするおそれがあります。
- タイヤが溝にはまり転倒するおそれがあります。
- 凹凸の差が大きいところは自転車から降り、押して歩いてください。

電動アシスト自転車の発進に慣れるまでは、車や人の多い道で乗らない

- 電動アシスト自転車は普通の自転車より軽く発進できます。普通自転車と同じようにペダルを踏むと、電動アシストが作動して普通自転車以上に加速するので、驚いて転倒や衝突のおそれがあります。
- まずは安全な場所で練習して電動アシストの感覚に慣れましょう。
- 練習の時は「弱モード」で発進しましょう。
- 危険な走行（高速走行、急坂登坂）はせず、年齢や体力に合った走り方をしてください。



止まっている時は、前と後の両方のブレーキをかけ、ペダルに足を乗せない



- ペダルに足を乗せると、電動アシストが作動する場合があります。
- 止まっている時は、前と後の両方のブレーキをかけ、ペダルには足を乗せないようにしてください。

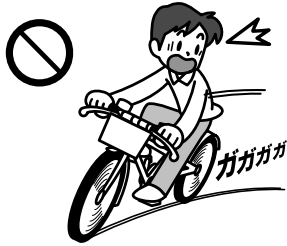
電動アシスト自転車を安全に使用するために

警告

夜走る前に、必ずバッテリー残量をチェックする

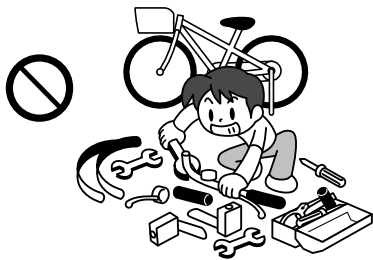
- バッテリーによって前照灯(ライト)は点灯しています。バッテリーが減少し、アシストができなくなった場合、しばらく経つと消灯します。その状態で乗車すると衝突や転倒のおそれがあります。
- 無灯火走行は法令により禁止されていますので夜の走行時に前照灯が消えた場合は、自転車を押して歩いてください。

異常を感じた場合は乗らない



- 事故や転倒によってけがをするおそれがあります。
- 異常表示や異常点滅(P83~P89)など、異常な状態を発見した場合はすぐに購入したお店に相談してください。

電動アシストシステムの分解や電動アシストシステムへの注油はしない



- 故障や誤動作が発生し、事故や転倒によりけがをするおそれがあります。
- 電動アシストシステム、バッテリーなどは精密な部品により構成されているため、分解、注油は行わないでください。
- 故障したと思われる時は、「もしもこんなときは」(P83~P91)を参照の上、購入したお店にご相談ください。

自転車を改造しない

- 部品の破損や、故障により、けがのおそれがあります。
- 修理及び、パーツの取り付けは購入したお店にご相談ください。

純正部品以外は使用しない(アクセサリ、交換部品)

- 部品の破損や故障により、けがのおそれがあります。
- タイヤなどの消耗品、アクセサリなどの部品は、購入したお店にご相談の上、必ず純正部品を取り付けてください。それ以外の市販品を使用した場合は思わぬ事故、故障の原因になります。また保証の適用が受けられない場合もありますのでご注意ください。

自転車や車輪を落としたり、ぶついたりしない

本電動アシスト自転車は前輪にモーターが組み込まれていますので、モーターが破損、損傷し正しく動かなくなる場合があります。

自転車を安全に乗るために

警告

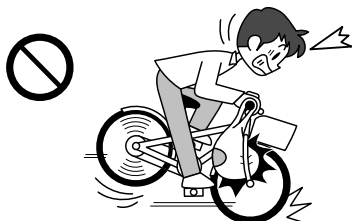
二人乗りはしない

(チャイルドシート(幼児用座席)を使用し
て幼児を乗せる場合を除きます。)



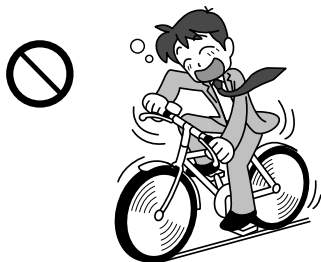
自転車の二人乗りは道路交通法で禁止されています。転倒や落車などによるけがのおそれがあります。

手やハンドルにバッグや荷物をかけたり、ペットをつないだりしない また、傘やステッキなどを車体に 差し込んだりしない



- 車輪に巻き込んだり、他の人や物にぶつけて転倒し、事故・けがをするおそれがあります。
- 荷物は、バスケットやリヤキャリアに積んでください。

飲酒時やかぜ薬など服用時、および体調が優れないときは乗らない



運動機能が低下し、衝突などによるけがのおそれがあります。

傘をさしながらの運転はしない



- バランスがとりにくくなり、転倒によるけがのおそれがあります。
- 合図する時以外は両手でしっかりハンドルを握って運転してください。

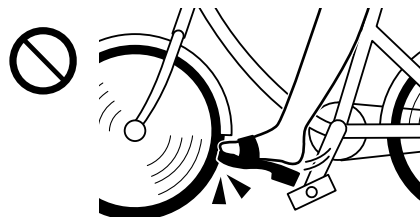
乱暴な乗りかたはしない

(アクロバットの様な乗りかたや急発進、急旋回など)



転倒や落車などによるけがのおそれがあります。

滑りやすい靴(サンダルなど)や、かかとの高い靴などを履いて乗らない



足がペダルから外れて、靴(サンダルなど)が前輪に接触するとハンドル操作ができなくなったり、前輪に靴(サンダルなど)が巻き込まれて転倒するおそれがあります。

自転車を安全に乗るために

警告

車輪やベルトに巻き込まれやすい
服装は避ける
(長いスカートや長いマフラーなど)



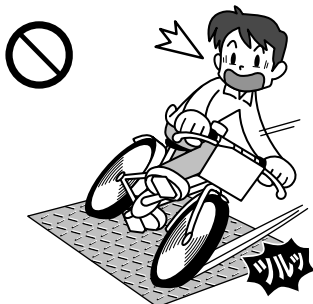
- 転倒によるけがのおそれがあります。
- すそが広がっているズボンやバンドやゴムで留めるようにしてください。

積載条件から外れる荷物を積まない
(P71)



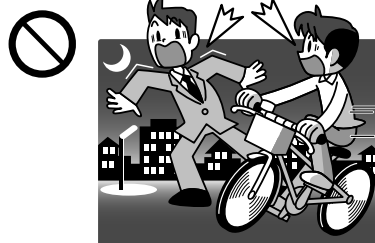
バランスを崩し、転倒によるけがのおそれがあります。

滑りやすいところでは乗らない
(積雪や凍結した道、濡れている鉄板やマンホール、ぬかるみ、歩道の点字ブロックなど)



- スリップして、転倒によるけがのおそれがあります。
- 自転車から降りて、押して歩いてください。

視界の悪いときは、無灯火で乗らない
(夜間やトンネル内や霧など)



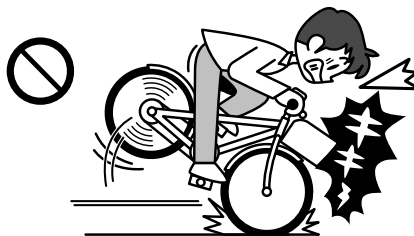
- 見通しが悪くなり、また他の通行者から見えづらくなり、衝突や転倒によるけがのおそれがあります。
- 夜間道路を走るとき、及びトンネル内を走るときには必ず前照灯を点灯してください。もし前照灯がつかないときは、押して歩いてください。

カーブで曲がる側のペダルを下げない



ペダルが地面と接触し、転倒によるけがのおそれがあります。

片側だけのブレーキ操作はしない



- スリップして、転倒によるけがのおそれがあります。
- ブレーキをかける時は、必ず前後ブレーキを併用し、後ブレーキを先に掛けてから前ブレーキを掛けてください。
- 前ブレーキを強くかけると、車輪がロックし自転車が前方に転倒するおそれがあります。

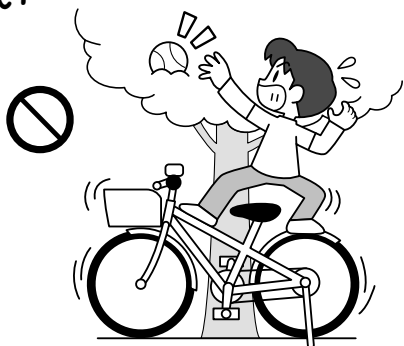
自転車を安全に乗るために

警告

急な登り坂では、自転車から降り押し歩く

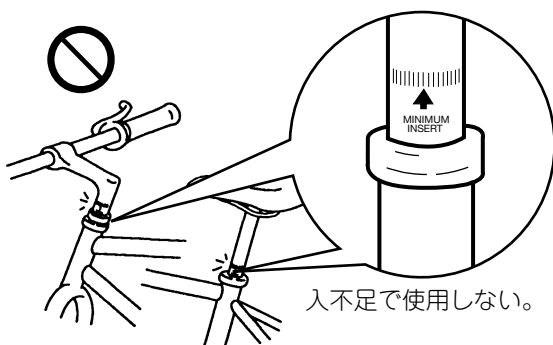
登り坂では前輪が浮いたり、ハンドルがとられやすくなり、転倒し事故・けがをするおそれがあります。

踏み台代わりなど走行以外に使わない



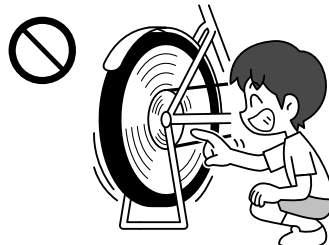
転倒によるけがのおそれがあります。

サドルやハンドルは引き上げ限界線が見える状態で乗らない



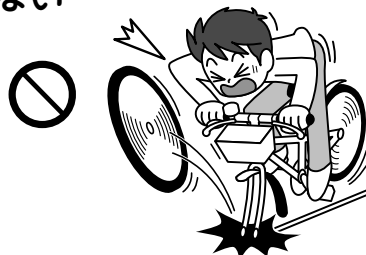
サドルやハンドルの折れや抜けにより事故・けがのおそれがあります。

車輪・チェーンなどの回転部に手や足、ものなどを近づけない また、子供を近づけさせない



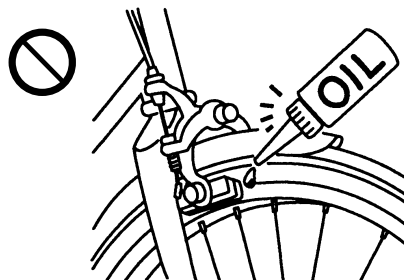
車輪やベルトに巻き込まれ、けがをするおそれがあります。

車輪の脱着やハンドル、サドルの調整後、締め付けを確認せずに乗らない



- 車輪やサドルが外れて転倒によるけがのおそれがあります。
- 必ず乗る前に点検してください。

ブレーキの制動面やタイヤ、リムに注油しない

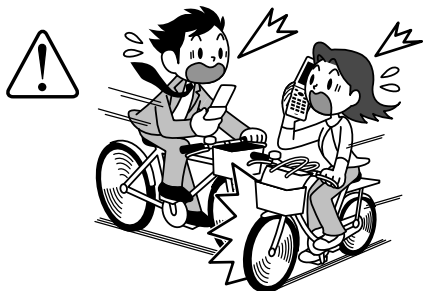


ブレーキが効かなくなり、衝突によるけがのおそれがあります。

自転車を安全に乗るために

警告

走りながら携帯電話をかけたたり、メール操作などをしながら走行することは道路交通法で禁止されています



片手運転と前方不注意により、衝突・転倒のおそれがあります。

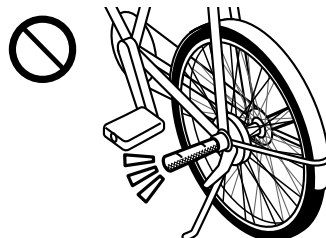
整備不充分のブレーキのままで走行しない(P41、P91)

- 赤さびになったケーブル、ほつれたケーブル、大きく摩耗したブレーキシューなどは制動力を低下させ、衝突・転倒のおそれがあります。速やかに販売店で、点検・交換をしてください。
- 乗る前には安全な広い場所で、前後のブレーキが正しく作動するか必ず確認してください。
- ブレーキレバーの握りしろについては「乗車前点検」の項目を参照してください。
- 雨天のときは、晴天のときより制動距離が長くなります。スピードを控えて、早めの滑らかなブレーキ操作をしてください。
- 後輪のローラーブレーキには専用グリスの補給が必要です。1年毎、またはブレーキをかけたときに音鳴りの発生や制動力に異常を感じたら、販売店でグリスを補給してください。

自転車が完全に止まってから降りる

自転車が完全に止まる前に飛び降りるようにして降りると、バランスを崩して転倒やけがのおそれがあります。

ハブステップを使用しないこと

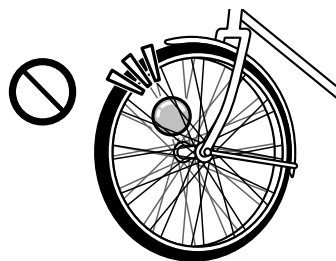


後ハブ軸にハブステップを取り付け、2人乗りで使用すると、ハブステップが破損して転倒したり、事故を起こす危険があります。

歩行者に危害を及ぼすおそれのある突起物を装着しないこと

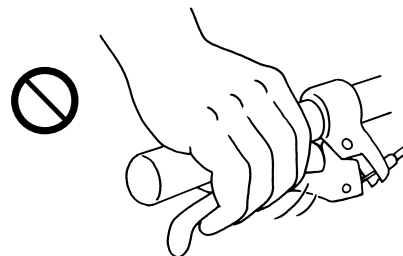


スポークの間にボールなどを入れて走らないこと



車輪とフレーム、前ホークなどのすき間にはさまって転倒するおそれがあります。

ブレーキレバーの遊びが大きくないこと

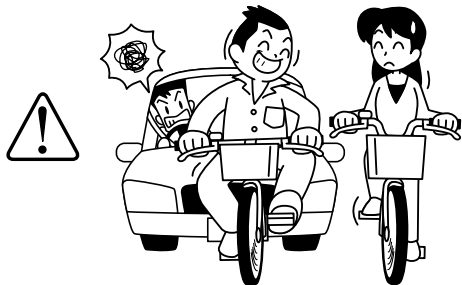


ブレーキレバーの遊びが大きいものは、ブレーキが効かなくなることがあり、危険ですので、すぐに販売店で点検を受けてください。

自転車を安全に乗るために

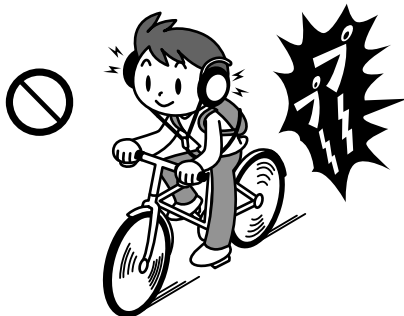
警告

2人以上で通行するとき、横に並んで通行しない



自転車の並進は道路交通法で禁止されています。他の交通の妨げになったり、接触して、事故を起こす危険があります。1列で通行しましょう。

イヤホン・ヘッドホンを使用しながら乗車することは道路交通法で禁止されています



周囲の音が聞こえず、事故を起こすおそれがあります。



リムのブレーキ面に磨耗による変形、ふくれ、キズ、ひび、きれつ、振れ、汚れがあるまま使用しないこと

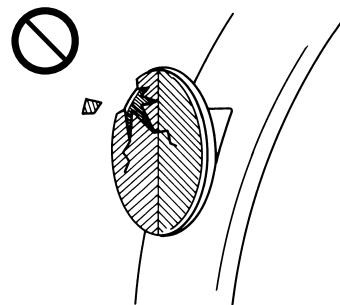
走行中にリムが破損し、転倒して事故・けがをするおそれがあります。



未組み立て及び未調整の自転車を使用しないこと

部品が外れたり、操作ができなくなり、転倒や事故・けがのおそれがあります。必ず販売店でも点検・組み立てをおこなってください。

リフレクタが破損したり、汚れたまま使用しないこと

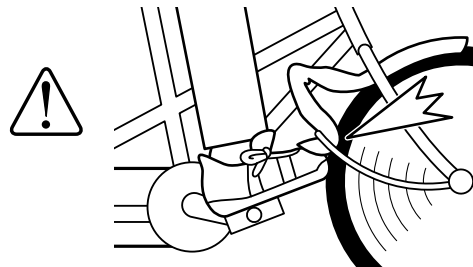


変形したり破損した部品はすぐに交換すること



夜間使用する時は、前照灯の点灯を確認すること
リヤリフレクターにソーラーテールを装着している車両は、ソーラーテールの点滅を確認すること

走行中、くつ先が前輪や前ドロヨケに接触しないようにする
(つま先でペダルを踏む)



前輪の回転により、足やドロヨケが巻き込まれて、事故を起こす危険があります。

自転車を安全に乗るために

警告

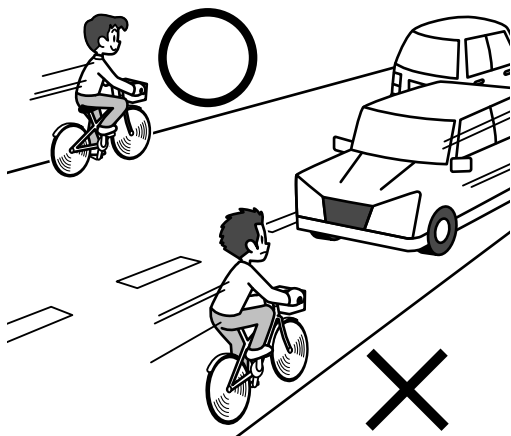
幼児、児童が自転車に乗車する時は、必ず自転車用ヘルメットを着用させてください

また、幼児・児童以外の者が自転車に乗車する時も、安全のためヘルメットの着用をおすすめします。



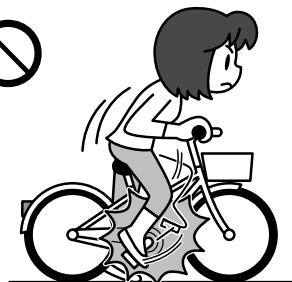
車道を通るときは、左側に沿って通行します

車道の右側通行は道路交通法で禁止されています



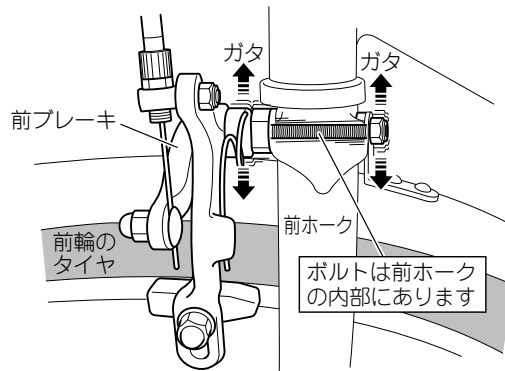
発進時はペダルを強く踏み込みすぎない

- 思わぬ急発進により転倒や衝突事故によるけがのおそれがあります。
- 一般の自転車のように強く踏み込まなくても、楽に発進することができます。



前ブレーキの取り付け部のネジがゆるんで、前ブレーキがガタガタしたままで走行しない

前ブレーキが破損して、正常なブレーキができなくなり、事故・ケガのおそれがあり危険です。



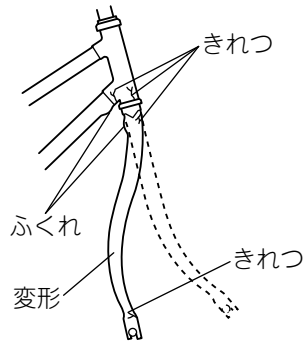
自転車を安全に乗るために

警告

フレーム、前ホークに異常がある場合は乗らない



※変形、きれつ、ふくれ、などの異常がないこと。



強制



衝突や転倒したときは必ず点検を行い、異常を発見したら使用せずに販売店に相談すること。

- 走行中にこわれて、事故・けがのおそれがあります。
- 前ホークには、交通事故などで衝突した時に、前ホーク自体が変形することで、乗員や車体に加わる衝撃を吸収する機能があります。このため、前ホークはむやみに高い強度には設計されていません。衝突や転倒などで、自転車に強い衝撃が加わった後は、特に前ホークにきれつや変形などの異常がないか確認してください。

自転車を安全に乗るために

⚠ 注意

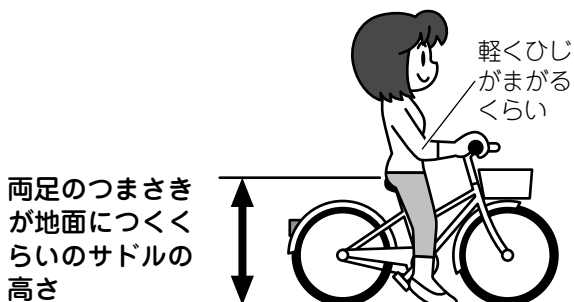
乗る前に必ず乗車前点検をする

- 乗る前には必ず点検を行ってください。
(P40～P47)
- 不明な点がありましたら販売店にご相談ください。

正しい姿勢で走行できるよう調整する

お買い求めの販売店でサドルやハンドルの位置などを自分に合った高さに調整してもらいましょう。

通常の場合



日常点検や定期点検を行ってください



故障したままの整備不良車の運転は禁止されています。

雨天時の坂道走行では、タイヤがスリップしたりブレーキのききが悪くなり、転倒や衝突事故を起こす危険性が高まります



前後ブレーキを併用し速度を落として走行してください。特に雨、風、雪がひどいときや視界が悪いときは、自転車から降りて押して歩いてください。

雨などでブレーキが濡れた場合は、乾燥させた後ご利用ください

雨が上がってもブレーキが濡れているとブレーキのききが悪くなります。特に、大雨に当たった場合やブレーキが水に浸かった場合は、必ずブレーキのききを確認し、異常があれば使用を中止してください。

自転車を安全に乗るために

電動アシスト三輪車は、通常の自転車と機能や構造が違うため、乗車感覚も異なります。乗り方によっては転倒のおそれもありますので、以下の点を特に注意してください。

警告

乗り方を充分習得するまでは公道では乗らない

練習は空き地などの安全で平らな場所で行ってください。

坂道・斜面・凸凹面では練習しない

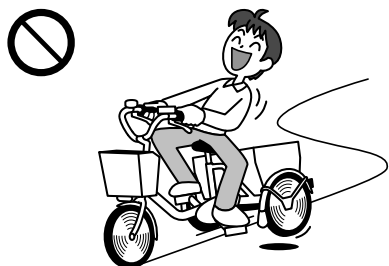
慣れるまでは平坦路で練習してください。

傾斜のある道路では、走行中にハンドルを取られやすく、転倒によるけがをするおそれがあります。

歩道の段差や溝・凹凸の激しい路面を走らない

車体が傾き、ハンドルを取られて転倒し、けがをするおそれがあります。三輪車から降りて、後輪に足をひかれないように注意しながら押してください。

ジグザグ運転や急旋回をしない



後輪が浮き上がり転倒によるけがのおそれがあります。

次のようなときはスピードを出さない(5km/h以下(歩く程度)の速さで走るか降りて押す。)



- 片側に傾斜している道路の走行
- 狭い場所の走行
- 下り坂及びカーブ
- 凹凸のある路面の走行

スピードは通常でも次の通りとしてください



標準常用速度：8～12km/h

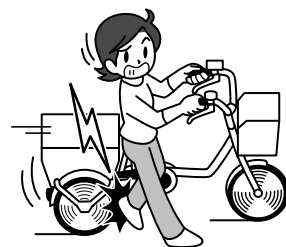
ただし、スイングストッパー装着時は5km/h以下

高速での事故・転倒は大けがのおそれがあります。スピードはいつもより控えめにしてください。

後の車体幅が広いので次のことに充分注意して使用してください



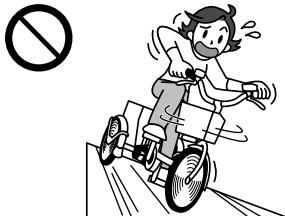
押して歩くとき、またはペダルに片足を乗せてけんけん乗りをすると、後ドロヨケがかかると当たってけがのおそれがあります。



自転車を安全に乗るために

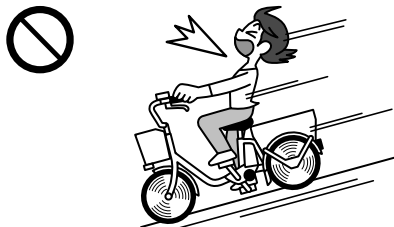
警告

片側に傾斜している道路では、
ハンドルをとられないようにする



安定が悪く転倒によるけがのおそれがあります。

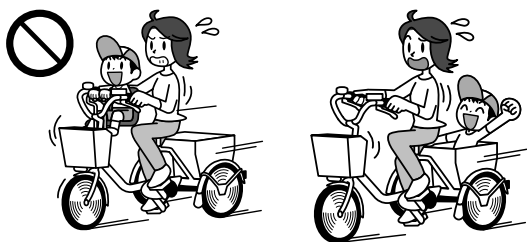
下り坂やカーブでは、ブレーキを
早めにかけて十分スピードを落とす



転倒や落車等によるけがのおそれがあります。

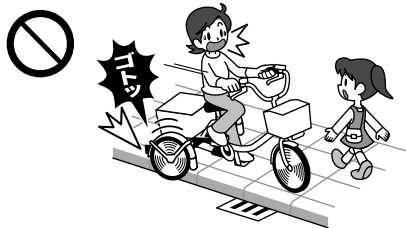
- ブレーキは必ず前後同時にかけてください。

この自転車には、幼児を乗せない



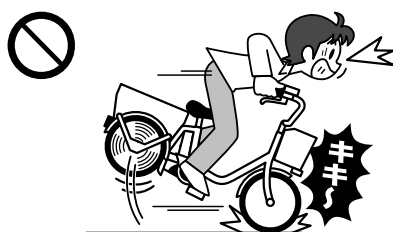
- この自転車にはチャイルドシートは取り付けできません。
- 幼児を同乗させると、安定が悪くなり、転倒によるけがのおそれがあります。

せまい場所への乗り入れに注意する



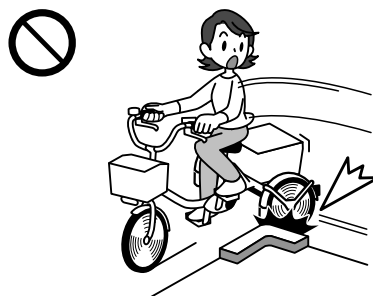
脱輪や後輪をぶつけ、転倒によるけがのおそれがあります。

走行中にパーキングブレーキをかけない



前輪がロックし転倒によるけがのおそれがあります。

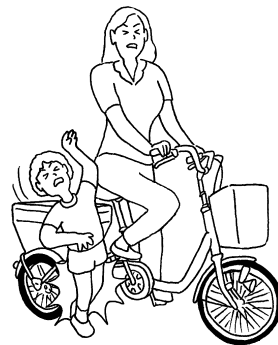
カーブは大きめに回る



脱輪や後輪をぶつけ、転倒によるけがのおそれがあります。

けんけん乗りをしない

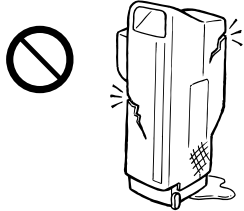
けんけん乗り（外側の足をペダルにのせ、内側の足で地面をけりながら助走し、勢いをつけてサドルにまたがる乗り方）は、後車輪が歩道の段差や、歩行者とぶつかり転倒や事故のおそれがあります。



バッテリーや充電器を使うとき

警告

バッテリーが破損したときや、傷を発見したとき、または異臭がするときには使用しない



- バッテリーの液漏れによって、やけどするおそれがあります。
- 異常を感じたときは、すぐ購入したお店にご相談ください。

バッテリーの接点を短絡(ショート)させない



発熱、発火、感電、破損、故障の原因となります。

バッテリーを分解したり、改造しない

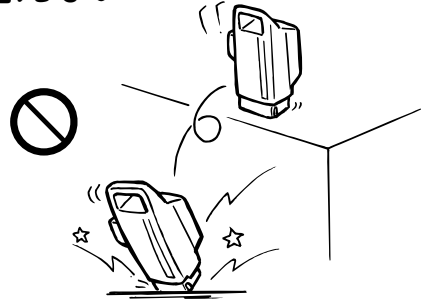


発熱、発火、感電、破損、故障の原因となります。

専用充電器以外の充電器は使用しない

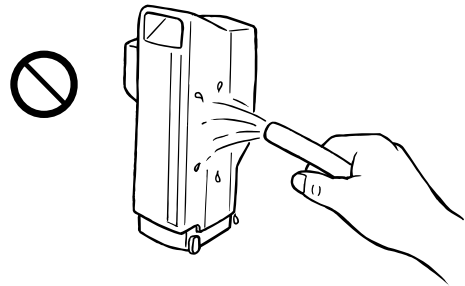
発熱、発火、破損、故障の原因となります。

バッテリーは落とさない、衝撃を加えない



落下等により衝撃が加わると、発熱、発火、破損等の故障の原因となります。

バッテリーに水をかけない、水没させない

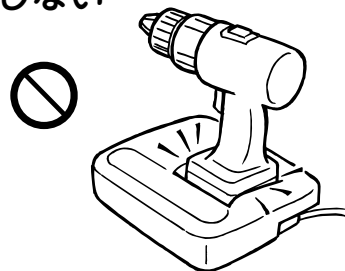


発熱、発火、故障の原因となります。

バッテリーを火に入れたり、過熱しない

発熱、発火、破損、故障の原因となります。

充電器を他の電気機器の充電に使用しない



火災、破裂、発熱、発火、故障の原因となります。

バッテリーや充電器を使うとき

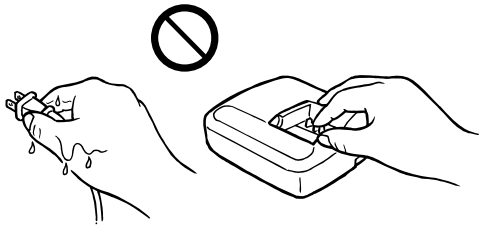
警告

充電端子を短絡（ショート）させない



発熱、発火、感電、破損、故障のおそれがあります。

ぬれた手で電源プラグを触らない、充電端子に触れない



感電のおそれがあります。

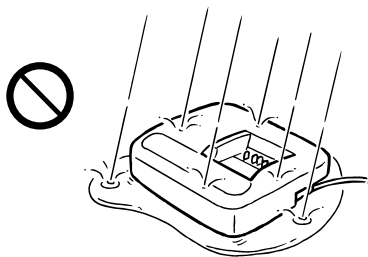
充電端子に電池（乾電池、ボタン電池等）を接触させない

破裂、発火、破損のおそれがあります。

充電器を分解したり、改造しない

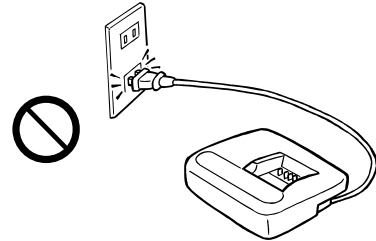
火災や感電の原因になります。

充電器に水をかけたり、屋外で使
用しない



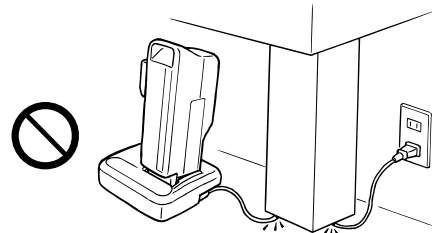
感電や火災、故障の原因になります。

電源プラグは根元まで確実に差し込む



差し込みが不完全の場合、感電や発熱による火災、故障や破損の原因になります。

電源コードの上に物を置いたり、コードをはさんで固定しない



火災や感電の原因になります。

コードに傷がついているときは使
用しない

火災や感電、故障のおそれがあります。

充電器を家庭用コンセント（AC100V）
につないだままにしない

コンセント部分にほこりがたまり、火災になるおそれがあります。ほこりは定期的に取るようにしてください。

充電器を使用しない場合は、安全のためコンセントから抜いておいてください。

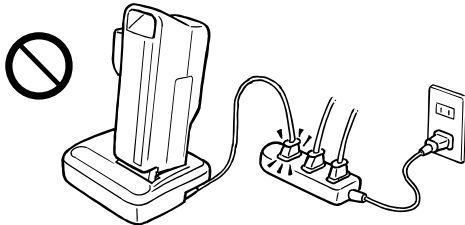
充電する際は、平坦な場所に置き
使用すること

不安定な場所で使用した場合、落下や転倒による破損、故障の原因となります。

バッテリーや充電器を使うとき

警告

コンセントや配線器具の定格を超えた状態や、家庭用コンセント（AC100V）以外で使用しない



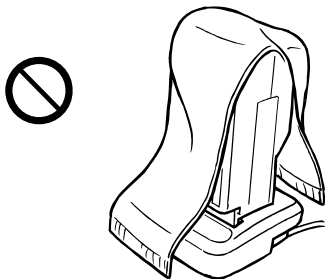
たこ足配線で定格を超えたり、家庭用コンセント（AC100V）以外で使用すると、発熱・発火によって火災や故障の原因になります。

幼児やペットが触れるところにおかない



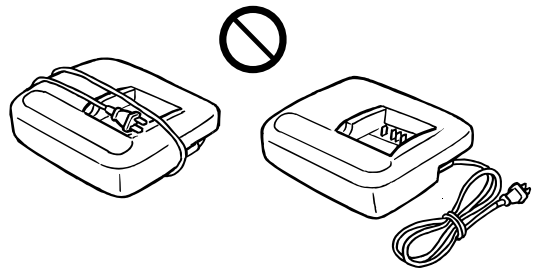
感電や火災、故障、幼児の怪我や事故の原因になります。

充電中は周囲にカバーをしたり、燃えやすい物を置かない



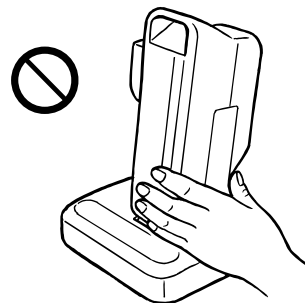
発熱し、火災や故障の原因になるおそれがあります。

電源コードを束ねた状態で使用したり、充電器本体に巻きつけない



電源コードが損傷し、火災や感電などの原因になるおそれがあります。

充電中は長時間同じ場所に触れない



充電中は40℃～60℃になる場合があるため、低温やけどをするおそれがあります。

ガソリンやガス等の引火物の近くでは充電しない

火災や爆発などの原因となることがあります。

充電器を踏んだり落としたり衝撃を与えない

発熱、発火、破損、故障の原因になります。

分解し部品交換や加工をしたバッテリーパックを使用しない

発熱、発火、破裂、破損、故障の原因になります。

バッテリーや充電器を使うとき

注意

電動アシスト自転車用のバッテリーを他の電気機器に使用しない

他の電気機器に使用すると故障や事故の原因となるおそれがあります。

保護フィルムを剥がしてから使用する

製造工場にて輸送時に傷防止のためバッテリーに保護フィルムを貼って出荷しています。保護フィルムを剥がしたときに、フィルムの糊がバッテリーに残る場合があります。糊残りが発生した場合は、水を固く絞ったタオルなどで拭き落としてください。

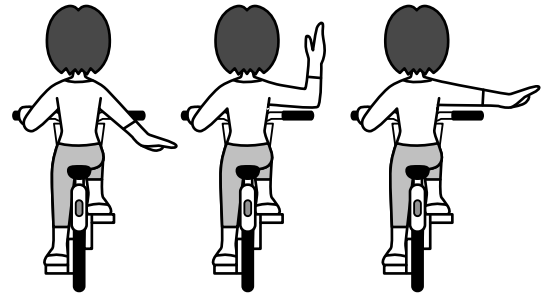
自転車の交通ルールについて

交通ルールを守りましょう

1

自転車の正しい乗りかた

- 発進するときは、見通しのきく道路の左側で、後方と前方の安全を確かめる。
- 右折、左折するときは、早めに合図する。
- 停止するときは、安全を確かめて停止の合図を行い、道路の左側に沿って停止し、左側に降りる。



停止

左折

右折

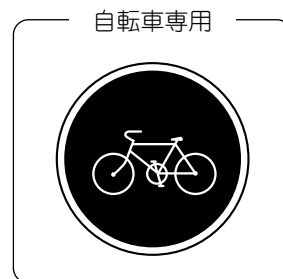
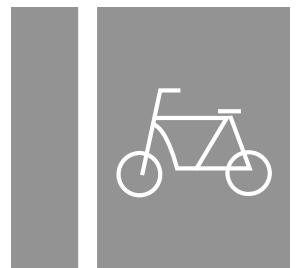
2

自転車の通るところ

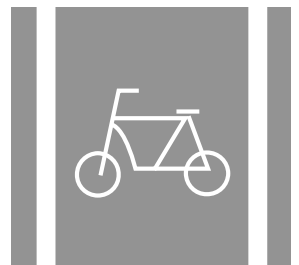
- 車道を通るときは、車道の左側に沿って通行する。
- 自転車は路側帯を通ることができますが、歩行者の通行に大きな妨げになるところや、白二本線の標示のあるところは通れません。
- 自転車歩道通行可の標識のある歩道は、つぎの方法により通行することができます。
 - ・ 歩道の車道寄りの部分を徐行する。
 - ・ 歩行者の通行を妨げるおそれのある場合は、一時停止する。
- 自転車道のあるところでは、自転車道を通る。
- 道路を横断するとき、近くに自転車横断帯があれば、自転車横断帯を通る。
自転車横断帯がなく近くに横断歩道があるときは、自転車を押して横断歩道をわたる。



普通自転車の歩道通行部分



自転車横断帯



3

自転車が通行できる歩道、路側帯を通るときの注意

- 歩道は歩行者優先であり、車道寄りを徐行すること。
- 歩行者の通行を妨げない。
- こども、身体の不自由な人が歩いているときは、一時停止か、充分速度を落とす。
- 自転車は車道通行が原則です。道路交通法上、自転車は軽車両と位置づけられています。したがって、歩道と車道の区別のあるところでは車道通行が原則です。但し、次の場合には歩道を通行することができます。
 - ・ 道路標識等で指定された場合
 - ・ 運転者が児童、幼児等の場合
 - ・ 車道または交通の状況からみてやむを得ない場合

自転車の交通ルールについて

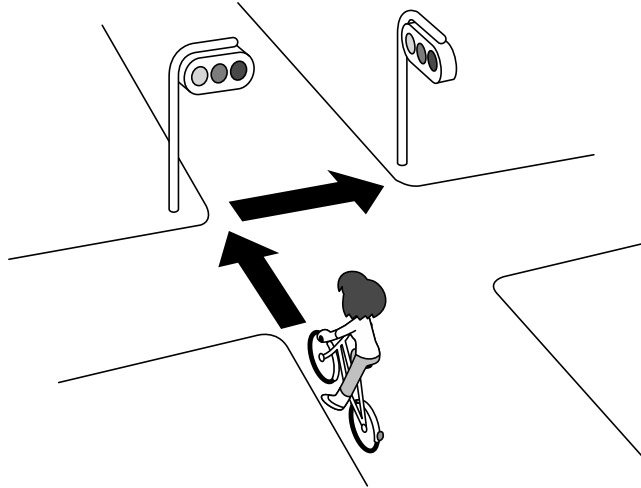
交通ルールを守りましょう(つづき)

4

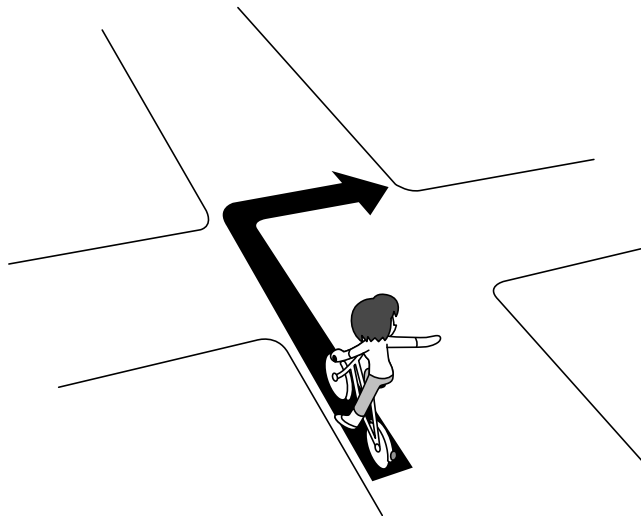
交差点の通りかた

- 右折の方法

信号などや交通整理が行われているところ



信号がなく交通整理が行われていないところ



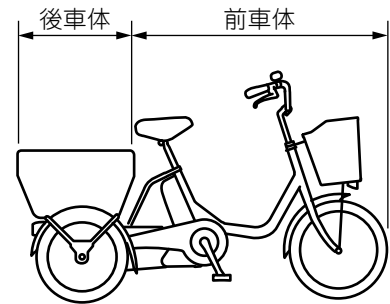
- 自転車横断帯があるときは、その自転車横断帯を通る。
- 自転車進入禁止標識のある交差点では、左側の歩道に乗り入れて自転車横断帯を通る。

三輪車の構造と特徴

この三輪車はスイング機構を装備しており、普通自転車や幼児用三輪車とは構造や走行性が異なりますので、注意してご使用ください。

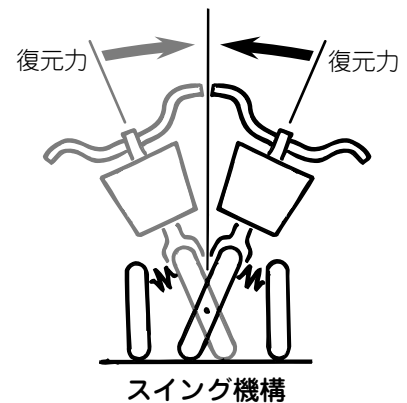
構造

この三輪車は「前車体」と「後車体」で構成されており、バネによるスイング機構を装備しています。この機構により、前車体は後車体に対して、ある程度柔軟に左右に傾き、また傾いても元に戻ろうとする復元力が働きます。（但し、自転車に乗れない方の一時的な練習用としてスイングストッパーを取り付けると、スイング機構が働かなくなります）



通常使用時（スイングストッパーを取り付けない時）

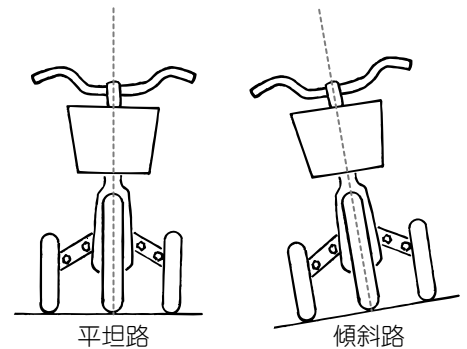
乗員が体を左(右)に傾けると、前車体も左(右)に傾きますが、バネの力により元に戻ろうとする復元力が働きます。カーブ走行などで前車体が傾くと、チェーンがチェーン脱落防止機構に接触し音がしますが異常ではありません。



三輪車の構造と特徴

スイングストッパー取り付け時

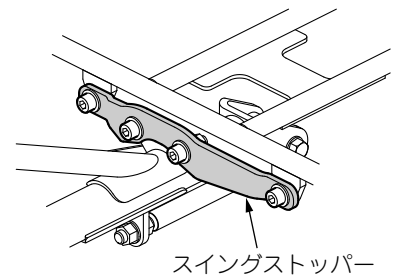
- 前車体はスイングストッパーで後車体に固定されますので、スイング機構は働きません。
- 路面が左右に傾いているところでは、車体全体も路面と同じに傾きます。
- スイングストッパーの取り付け・取り外しは販売店にご相談ください。



⚠ 警告

スイングストッパーは乗れるようになるまでの一時的な部品です。

この部品を装着すると、普通自転車に比べて更に操縦性が悪くなりますので、乗りなれてきたらなるべく早くスイングストッパーを外してください。



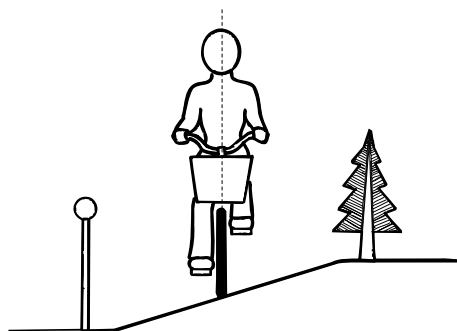
傾斜や凹凸のある路面での三輪車の特徴

三輪車は、次の例に示すように、普通自転車と異なり、特に路面の傾斜や凹凸の影響を受けますので、充分注意して運転してください。

1

普通自転車(二輪車)

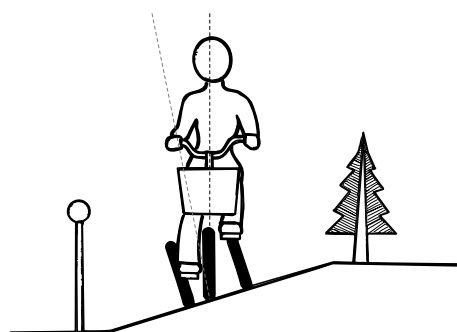
- 路面が傾斜していても、車体は傾かず、ほぼまっすぐ乗車できます。



2

三輪車(スイングストッパーを取り付けない時)

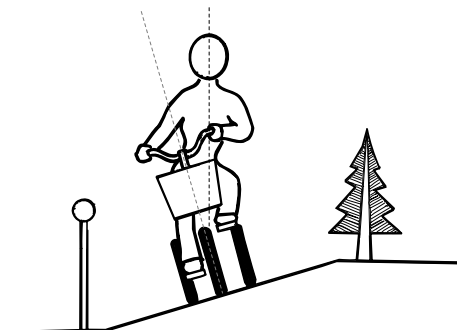
- 路面の傾斜により後車体は傾きますが、スイング機構があるので、乗員がバランスをとることにより、前車体は二輪車に近い状態で乗車できます。



3

三輪車(スイングストッパーを取り付けた時)

- 前後車体がスイングストッパーで固定されているため、スイング機構は働かず、路面傾斜角度と同じ角度に車体全体が傾きます。
- 乗員が傾斜と逆方向に体でバランスを取る必要があります。
- 路面の傾斜の方向にハンドルを取られる傾向があります。



⚠ 警告

- 三輪車は路面の傾斜や凹凸の影響を受けやすく、車体が傾いたりハンドルを取られやすくなり、普通自転車に比べて運転しにくくなります。
- 路面の傾斜や凹凸が大きい場合は転倒する危険がありますので、三輪車から降りて押して歩いてください。
- 特にスイングストッパーを取り付けた時はこの傾向が著しくなります。
- 乗りなれたら、スイングストッパーはなるべく早く外してください。

電動アシスト自転車のしくみ

● ペダル踏力とアシスト力の比率

要 点

ここでは、アシスト力の法令基準について説明しています。電動アシスト自転車はこの基準の範囲内で、ペダルを踏む力や走行速度、変速位置などに応じてアシストをします。

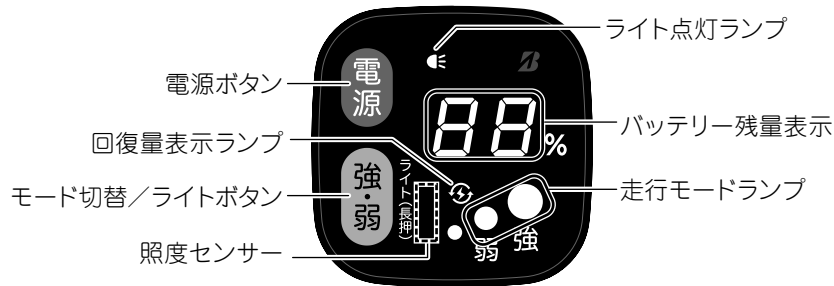
〈法令基準〉

- 時速10km/hまでは、こぐ力とアシスト力の比率が「最大1:2^{*}」となります。
- 時速10km/hを超えると、しだいにアシスト力を弱めていきます。
- 時速24km/hでアシスト力はゼロになります。

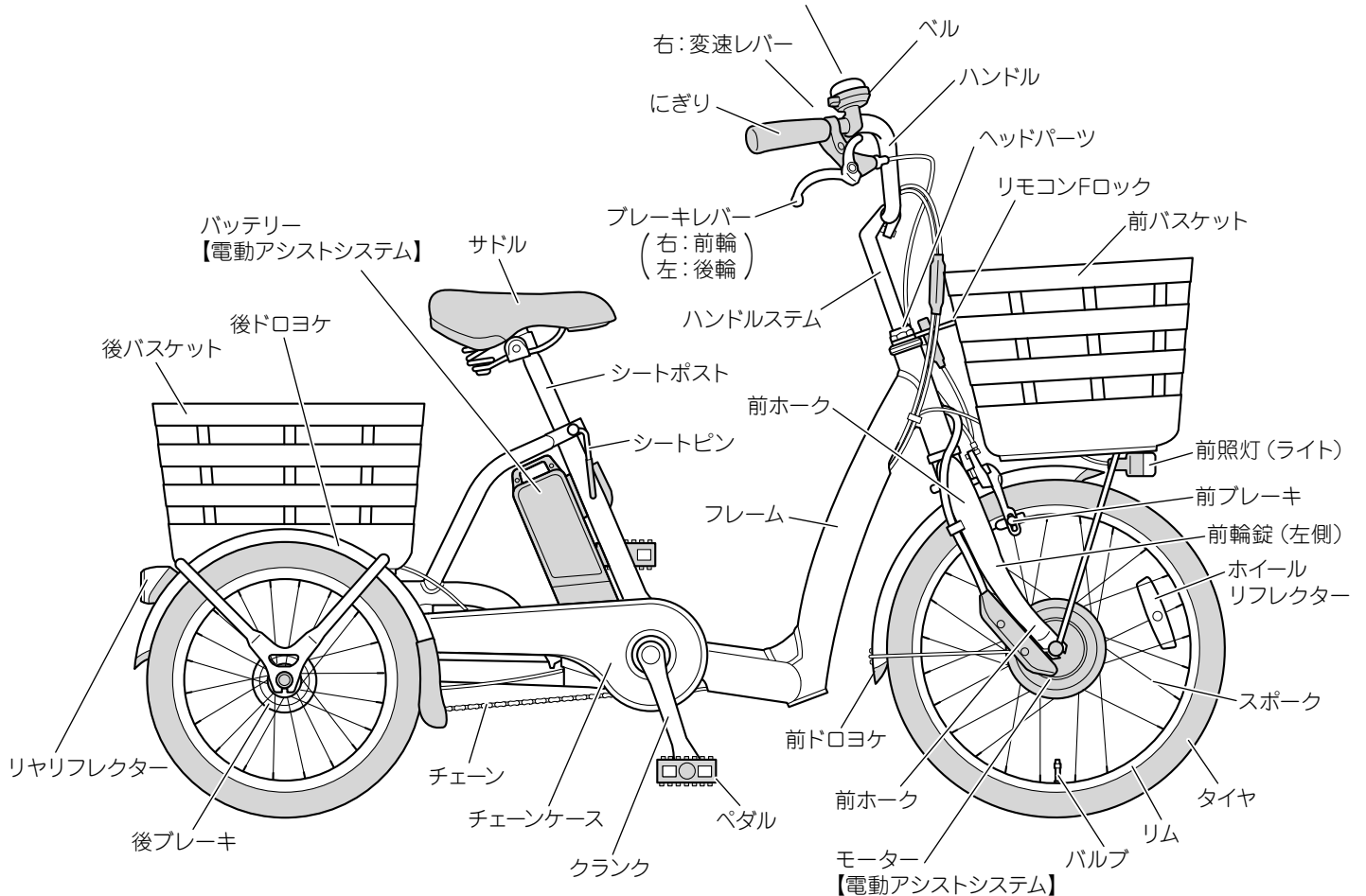
※法令基準はあくまで最大値を定めるものです。電動アシスト三輪車の場合は時速16km/hでアシスト力はゼロになります。

各部の名称

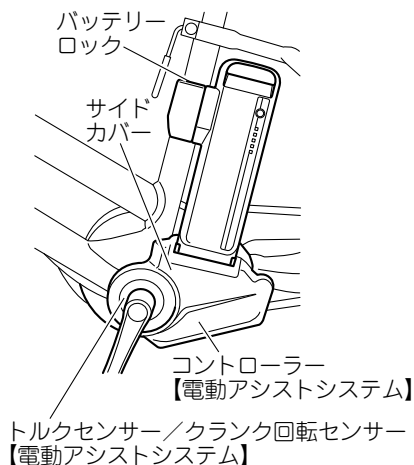
メインスイッチ



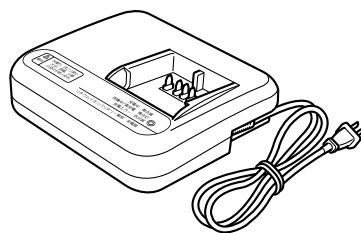
(ハンドル左側) メインスイッチ【電動アシストシステム】



車体左側から見た図



専用充電器



キーを失くしたときは

裏表紙の「キー番号記入欄」にキー番号を控えておいてください。

万一、キーを紛失した場合、番号を控えておくことにより、キーの作製が可能です。

キーの作製については、ご購入入店にご相談ください。(有料)

バッテリーの特徴

電動アシスト自転車のバッテリー

本電動アシスト自転車のバッテリーはリチウムイオンバッテリーです。

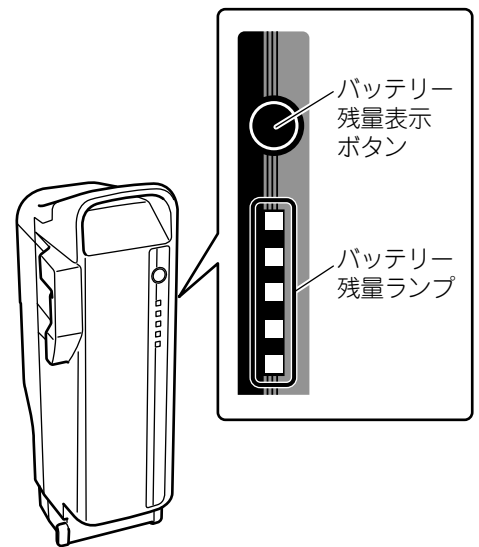
このバッテリーは軽くて電池容量も優れているバッテリーですが、次のような性質があります。

- 極端に温度の高い環境／低い環境では性能低下がある。
- 放置中でも放電がわずかにある。
- 数回使用することで新品時より性能が安定する。

また、このバッテリーは、コンピューターが内蔵されていて、バッテリー残量ランプでバッテリー残量の目安や異常の発生などの情報を知ることができます。

バッテリー残量表示ボタンを押すと、バッテリー残量ランプが約5秒間点灯いたします。

バッテリー残量については「バッテリー残量の確認」(P49)を、異常表示については「もしもこんなときは」(P83～P91)をご確認ください。



要 点

バッテリーを取り外した状態で接続端子が雨水にぬれていても、ご使用に問題ございません。

バッテリーの特性

- 電動アシスト自転車のバッテリーは、温度が上がると、システム保護制御が働きアシスト力が低下することがあります。(故障ではありません。)その後、バッテリーの温度が下がると機能が回復いたします。なお、変速段のシフト位置をそれまで使用していたシフト位置より落としてご利用いただくことで、この現象を回避することができます。(たとえば〈2〉→〈1〉速にする)
- バッテリーの温度が低下すると、一回の充電あたりで走行できる距離が短くなったり、アシスト力が弱くなるがありますが、これはリチウムイオンバッテリーの特性で、故障ではありません。その後、温度が上がると回復します。バッテリーを15～25℃の室内で保管してからご使用いただくことで、この症状を軽くすることができます。
- このバッテリーは置いておくだけで、わずかながら放電します。ご使用前に充電することで回復します。
- 購入直後(新品時)は一回の充電での走行距離が短い場合がありますが、数回の使用と充電により、本来の性能を発揮いたします。
- バッテリーの温度によりシステム保護制御が動作した場合は、メインスイッチの各走行モードのランプが遅い点滅(0.8秒間隔)をします。



「弱モード」の場合



「強モード」の場合

バッテリーの交換について

バッテリーの寿命および交換

電動アシスト自転車のバッテリーは、充電と放電が繰り返し(700～900サイクル^{※1})行われることで、新品のときに比較して約50%まで低下します。また、長い間保管している場合にも、ごくわずかずつですがバッテリー容量は低下します。バッテリー容量が低下すると一充電あたりの走行距離が短くなります。また、アシスト力が弱く感じる場合もあり、このような状態が、充電してももとに戻らないようであれば、そのバッテリーの交換時期です。できるだけ早いうちにバッテリーの交換をお願いします。なお、この場合のバッテリー交換は有料ですのでお店で購入をお願いいたします。


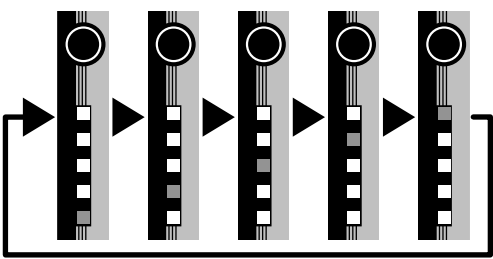
※1 充放電「1サイクル」とは：満充電のバッテリーが残量0(ゼロ)になるまで使用された後、再度満充電にする周期のことをいいます。

長期使用お知らせ機能

長期間の使用によりバッテリー容量の低下が想定されるため、バッテリー交換時期の目安をお知らせする機能を備えています。

お知らせ機能はバッテリーマネジメントシステムにより算出されたバッテリーのその時の容量が基準以下に達すると、充電器接続時及びバッテリー残量表示ボタン押下時にバッテリーのバッテリー残量表示ランプにお知らせ表示を行いお知らせします。

お知らせ表示の表示条件は、以下のとおりです。

お知らせ内容	表示条件	表示時間	表示内容
交換準備	初期容量の約51%以上	バッテリー残量表示ボタン押下後、約3秒	
	約60%以下	充電器接続後、約5秒	
交換推奨	初期容量の約50%以下	バッテリー残量表示ボタン押下後、約5秒	
		充電器接続後、約30秒	

要 点

- 長期使用のお知らせを表記の時間表示したのち、自動的に充電が始まります。
- 長期使用お知らせ機能が作動しても引き続きお使いいただけますが、一充電あたりの走行距離が短く、アシスト力が弱く感じる場合がございます。バッテリーの交換時期ですので、販売店にご相談ください。

バッテリーの交換について

バッテリーの交換に関するお願い

- バッテリーの様子がおかしいと感じたら、まずは「もしもこんなときは」(P83～P91)をお読みください。それでも状態が改善しない場合は購入されたお店にご相談ください。
- 電動アシスト自転車のバッテリーの保証
電動アシスト自転車のバッテリーには、一定期間内の著しい劣化・故障に対して、保証しています。
詳細は保証書をご確認ください。

- バッテリーリサイクルのご協力をお願い

リチウムイオンバッテリーは、「資源の有効な利用の促進に関する法律(資源有効利用促進法)」で、次の2つが義務付けられています。

- 使用後の回収
- 再資源化

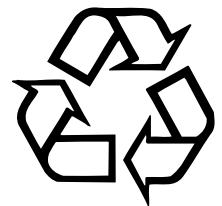
使わなくなったバッテリーはご購入店にお持ち込みいただくか、JBRCに加盟するバッテリーリサイクル協力店へバッテリー回収のご相談をお願いいたします。

JBRCホームページ

(https://www.jbrc.com/general/recycle_kensaku/)では、お客様のお近くのJBRCに加盟するバッテリーリサイクル協力店を検索することができます。

バッテリーはリサイクル可能な材料を多く含んでいます。環境保護のため、バッテリーの回収およびリサイクルにご協力をお願いいたします。

使用済みバッテリー
(回収リサイクルへ)



リサイクルマーク

充電モードについて (B400バッテリーのみ)

充電モードの種類

リチウムイオンバッテリーB400には2種類の充電モードがあります。電動アシスト自転車の使用環境に応じて、設定を変更することができます。

- **通常充電モード**

充電器にセットすると、満充電まで充電します。

- **リミット充電モード**

充電器にセットすると、満充電までは充電せず、回復充電が可能なバッテリー残量で充電を完了します。

※この残量は電池の状態により変動しますが、常温で新品時には70%～80%程度です。

リミット充電モードの特徴

- 充電完了直後より、回復充電機能が作動します。
- 充電量を抑えますので航続距離が短くなります。

〈お勧めの環境〉

- 家が坂の上で走行開始から長い下り道の方
- 充電直後から回復充電機能を使用したい方

⇒平地、下り坂自動回復充電機能、及びブレーキ回復充電機能をすぐに使うことができます。

要 点

- 【リミット充電モード】で充電した場合は、充電完了直後でも残量表示は5灯になりません。
- モードは何度でも切り替えることができます。
- リチウムイオンバッテリーB200、リチウムイオンバッテリーB300は、【リミット充電モード】に対応していません。

⚠ 注 意

- 【リミット充電モード】では満充電まで充電されませんので1回の充電での航続距離が短くなります。
- 【リミット充電モード】で充電しても、自転車を使用する際、バッテリーの内部温度が著しく高い若しくは低い場合には、バッテリー保護のため回復充電機能は作動しません。
- 【リミット充電モード】で充電しても、自転車使用中の回復充電機能により満充電へ近づくとき回復充電機能が弱くなる場合があります。
- 電池の状態により【リミット充電モード】で充電できる量は変動します。劣化が進むと充電率は低下し、充電完了後の残量表示が少なくなる傾向にあります。

充電モードについて (B400バッテリーのみ)

充電モード設定の確認・変更方法について

要 点

- 充電モード設定は、バッテリーを充電器に接続した状態でないと行えません。
- バッテリーを充電器に接続した状態でバッテリー残量表示ボタンを約3秒間長押しすると、選択中の充電モードをバッテリー残量ランプに表示します。
- 充電待機中、充電異常中は充電モードの表示及び設定変更はできません。
- 出荷時は【通常充電モード】で設定しています。
- バッテリー残量が回復充電可能な残量を超えている状態で【リミット充電モード】に変更した場合は、モードは変更されますが回復充電機能は動作しません。また、回復充電可能な残量まで使用しないと、次の充電ができなくなります。

設定確認・変更方法

1

バッテリーを充電器にのせます。

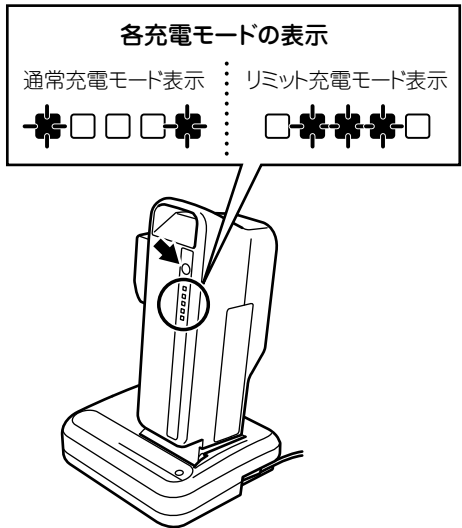
2

充電中にバッテリー残量表示ボタンを10秒間押し続けます。

- (1) 最初の3秒間で充電状態を表示します。
- (2) 次の5秒間で現在の充電モードを表示します。
- (3) 次の2秒間で再度充電状態を表示します。
- (4) 10秒経過で充電モードが変更され、変更された充電モードを5秒間表示します。

3

バッテリー残量表示ボタンから指をはなして充電モード変更完了です。



バッテリー残量ボタンを
10秒間押し続けて設定完了

バッテリー残量 ボタン操作	ボタン操作なし	ボタン長押し (10秒間)			ボタンから指をはなす [充電モード設定完了]
バッテリー残量 ランプの表示	充電状態表示 ※充電完了時は消灯	充電状態表示 ※充電完了時は残量表示	<div>現在の 充電モードを 表示</div> <div>通常充電モード表示</div> <div>※□□□※</div> <div>または</div> <div>リミット充電モード表示</div> <div>□※※※□</div>	充電状態表示 ※充電完了時は消灯	<div>変更後の 充電モードを 表示</div> <div>リミット充電モード表示</div> <div>□※※※□</div> <div>または</div> <div>通常充電モード表示</div> <div>※□□□※</div>
		3秒間 →	5秒間 →	2秒間 →	5秒間
		合計10秒			

充電に適した環境

非常に暑い／寒い場所では充電が正しくできない場合がありますので、次のような充電に適した環境で充電を行ってください。

- 温度は15～25℃
- 室内
- 雨水に当たらないところ
- 湿気の少ないところ
- 直接日光に当たらないところ
- 風通しがよいところ
- 平らで充電器が安定して設置できるところ
- 幼児やペットが触れないところ

要 点

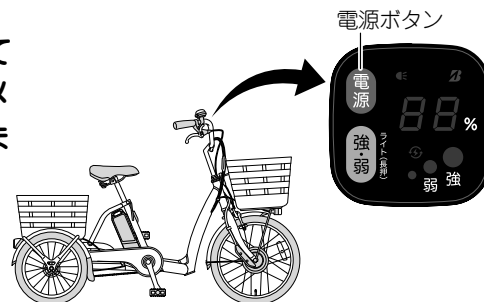
充電器との位置関係によっては、近くのテレビやラジオにノイズが発生する場合があります。

バッテリーの脱着

バッテリーの取り外しかた

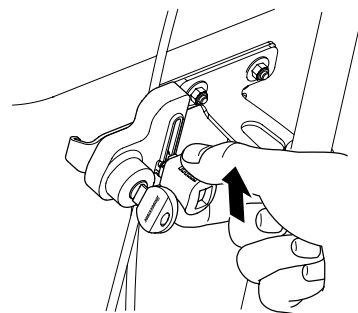
1

メインスイッチのランプ類が消灯して、電源が切れていることを確認します。電源が入っている場合は、メインスイッチの【電源ボタン】を押して電源を切ります。



2

前輪錠を施錠して、キーを抜き取ります。

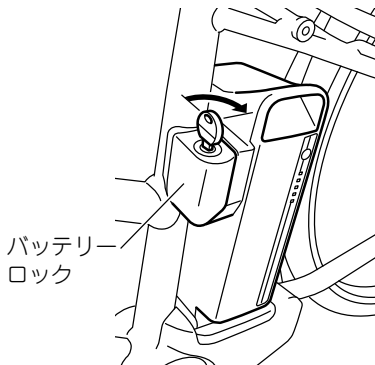


3

バッテリーロックにキーを挿入し、キーを時計回りに回します。

注意

バッテリーに手を添えてください。開錠時、バッテリーが手前に倒れ、怪我をするおそれがあります。



4

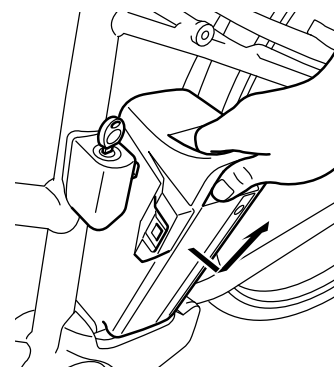
バッテリーロックが解除され、バッテリーが外せる状態になります。

5

バッテリーのグリップをしっかりと持ち、自転車の左側に倒すよう動かし上方へバッテリーを取り出します。

要点

バッテリーを取り外したまま、駐輪しているときに、接続端子が雨水にぬれてもご使用に問題ありません。

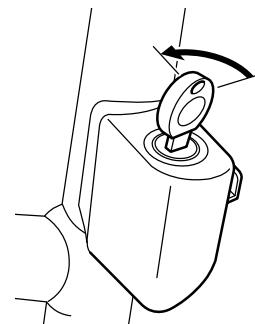


6

バッテリーを取り外した後、キーを反時計回りに回してから、キーを抜き取ります。

注意

キーを忘れずに抜き取ってください。



7

バッテリーを充電します。(P36～P38)

バッテリーの脱着

バッテリーの取り付けかた

1

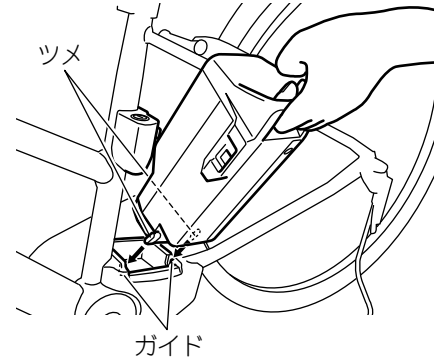
自転車側のガイドに、バッテリー下部のツメを合わせながら、ゆっくりとバッテリーを差し込みます。

⚠ 警告

バッテリーを装着する時に指などをはさまないように注意してください。

⚠ 注意

自転車側のバッテリー装着部にゴミが付いていない状態でバッテリーを装着してください。



2

バッテリーのグリップ側(上部)をカチッと音が出てロックするまで押し込みます。

要点

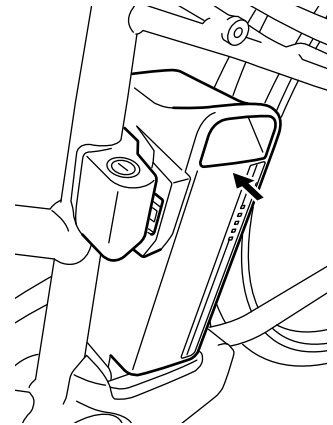
キーをロックに差し込んだ状態でバッテリーを取り付けられますが、バッテリーのグリップ側(上部)を中央まで入れた後、手でバッテリーを軽く押しつけながらキーを反時計方向に回してロックした後に、キーを抜いてください。

⚠ 警告

バッテリーが確実に装着されていないと、バッテリーが足の上に落下したり、走行中に脱落し転倒するなど、けがのおそれがあります。

⚠ 注意

- バッテリーを取り付けた後は、バッテリーを手前に引いて確実にロックされていることを確認してください。
- 走行前にキーを忘れずに抜き取り、バッテリーロックに差し込んだまま走行しないでください。



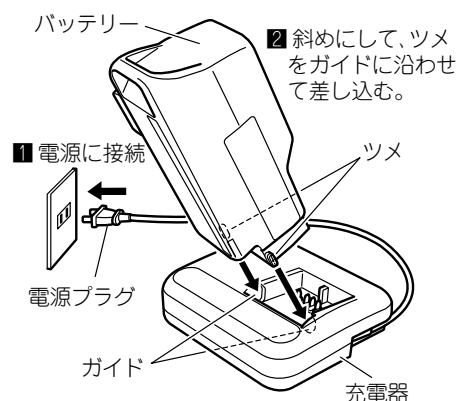
充電のしかた

バッテリーの充電は、バッテリーを車両から取り外し、専用充電器を使用して充電してください。

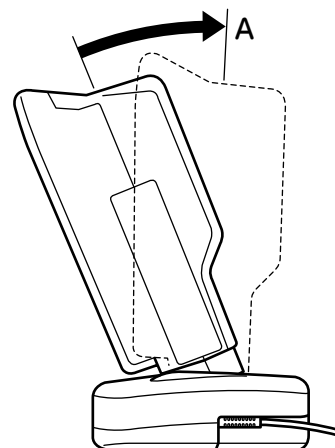
充電器のつなぎかた

1 充電器の電源プラグをコンセント(100V)に差し込みます。

2 充電器に対して斜めの方向から充電器に差し込みますが、その際にバッテリー下部の2か所のツメを充電器のガイドに沿わせるようにしてください。



3 バッテリーを充電器に対してまっすぐに起こし確実に充電器へ接続します。(図のAの方向へ押すようにします) 充電器が電源に接続されていれば、バッテリーを充電器に差し込むだけで、自動的に充電されます。



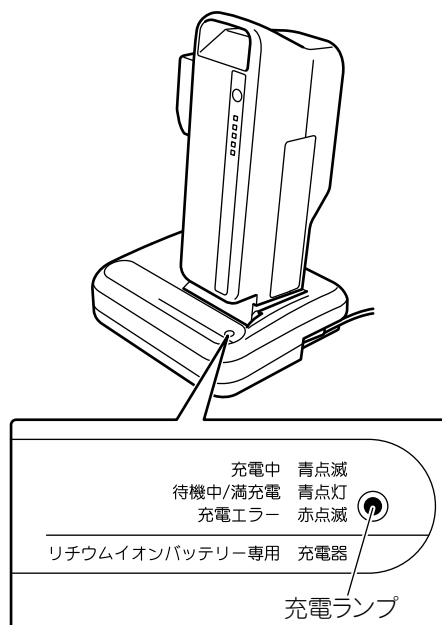
4 バッテリーの充電状態を、充電器の充電ランプもしくはバッテリーのバッテリー残量ランプで確認します。充電状態は「充電状態の見かた」をご参照ください。(P37)

警告

充電中の異音・異臭・煙がでるなど異常に気がついたら、ただちに充電器の電源プラグをコンセントから抜き、バッテリーも充電器から取り外してください。

5 充電の完了を確認できたら、バッテリーを充電器から取り外します。


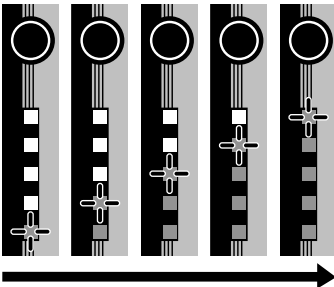
バッテリーの充電が完了すると、充電器の充電ランプが青色点灯し、バッテリーのバッテリー残量ランプは消灯します。充電器の方も押さえながらバッテリーのグリップをもって手前に倒してから、斜め上側に引くようにして取り外します。



充電状態の見かた

充電の確認

充電器の充電ランプとバッテリーのバッテリー残量ランプでバッテリーの充電状態の確認を行います。

充電ランプの表示	バッテリー残量ランプの表示	状 態
<div>充電中 青点滅 待機中/満充電 青点灯 充電エラー 赤点滅</div> <div>青色に点灯</div>	 5灯同時に点滅	バッテリーの内部が過度に高温または過度に低温のときは、充電器の充電ランプは青色に点灯し、バッテリーのバッテリー残量ランプは全て点滅することで、充電待ち状態であることをお知らせします。このような場合は、一旦充電を中止していただき、充電に適した環境にて改めて充電をしてください。
<div>充電中 青点滅 待機中/満充電 青点灯 充電エラー 赤点滅</div> <div>青色に点滅</div>		正常な充電状態の場合は、充電器の充電ランプは青色に点滅し、バッテリーのバッテリー残量ランプは現在の残量分の一番上のランプが点滅します。充電が進むにつれバッテリーのバッテリー残量ランプが1灯ずつ増えていきます。それに伴って点滅するランプの位置も一つ上に移動します。 ※【リミット充電モード】に設定している場合は、5灯まで増えません。
<div>充電中 青点滅 待機中/満充電 青点灯 充電エラー 赤点滅</div> <div>青色に点灯</div>	 全点灯後に消灯	充電が正常に完了すると、充電器の充電ランプは青色に点灯し、バッテリーのバッテリー残量ランプは全てのランプが点灯した後に消灯します。

要 点

- 過度に高温となったことで充電待ちになったバッテリーが、充電できる温度に下がるまで、室内の温度が高い状態の場合ほど時間がかかります。室内の温度が30℃の場合、充電できる温度に下がるまで1～2時間必要とする場合があります。
- 正常に充電している状態であっても、途中でバッテリー内部が規定の温度を超えたとき、バッテリー保護のために自動的に充電が中断されるように設定されています。この場合、十分にバッテリーが充電されない場合がありますので、しばらくバッテリーを冷ました後で、充電に適した環境で改めて充電を行ってください。

充電時間の目安

バッテリーの充電時間は、バッテリー内部の温度によって変化いたします。また、お買い求めいただいた電動アシスト自転車に装備されているバッテリーの種類（容量）によって異なります。

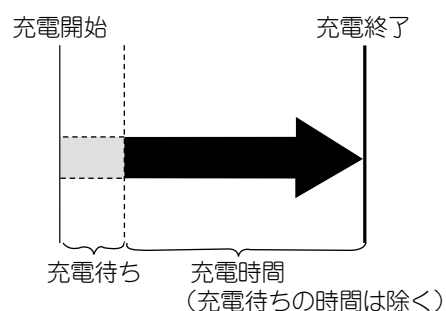
バッテリー残量ランプが1灯点滅の状態まで使用した場合、満充電になるまでの充電時間は製品仕様書をご参照ください。

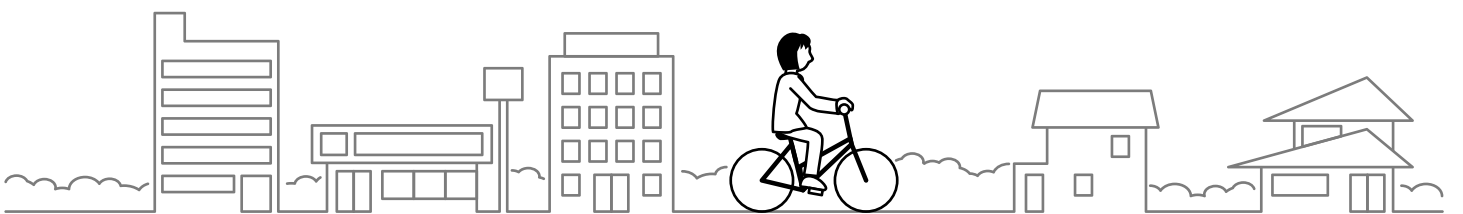
⚠ 警告

バッテリー充電中に異常に気がついた時は、ただちに充電器の電源プラグをコンセントから抜き、バッテリーも充電器から取り外してください。

要点

充電時間の目安には、充電待ち時間（バッテリー内部の温度が充電できる温度に下がるまでの時間）は含まれておりません。





乗車前点検

警告

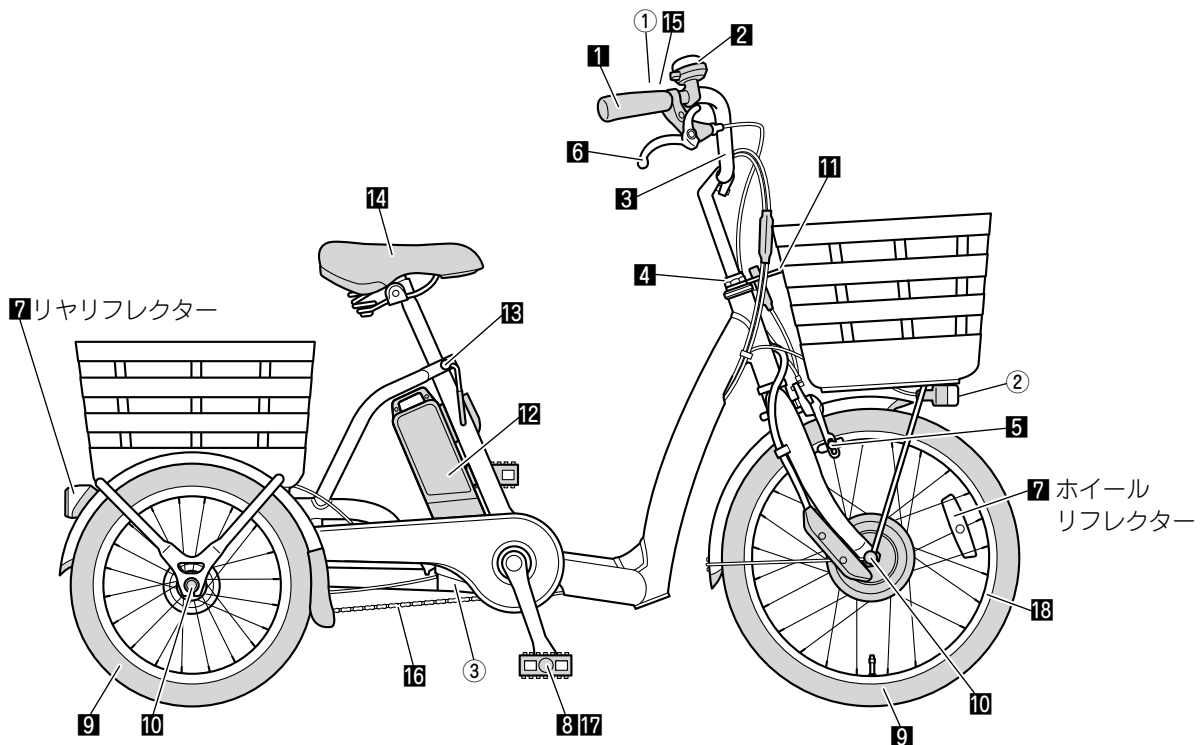
- 乗車前点検を必ず実施してください。
- 点検で異常が認められた場合は、すみやかに販売店で点検してください。
- わからないことや難しいと感じた時は、販売店にご相談ください。

要点

メインスイッチの電源を切った状態で点検してください。



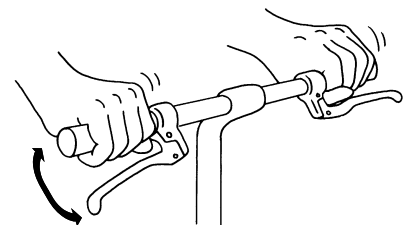
- 走行前に確認を行う項目 **1～18**
- 走行開始してすぐに確認する項目 **①～③**



自転車のイラストは代表例です

1 にぎり(グリップ)の固定状態

にぎり(グリップ)に力を入れてもハンドルに対しても回ったり、抜けないことを確認します。



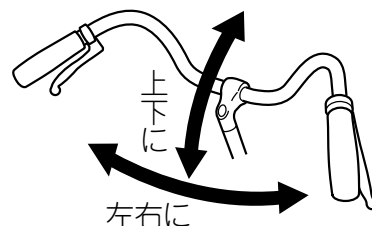
2 ベル(報知器)の作動具合

ベル(報知器)が正常に鳴るか、動きが悪くないかを確認します。

3 ハンドルの状態

前輪を足で固定した状態で、ハンドルを上下・左右・前後方向に力を加えても、がたつかないか確認します。また、ハンドルが前輪に対してほぼ直角に取り付けられているか確認します。

ハンドルの高さは、サドルにまたがった状態でハンドルバーを握ったとき、軽くひじが曲がるくらいが適正な位置です。



4 ヘッドパーツ

左右のブレーキレバーをにぎり、自転車を前後にゆすり、ヘッド部のゆるみ、ガタがないか、ハンドルの動きにひっかかりがないか確認してください。ハンドルの操作にひっかかりがある場合は、自転車には乗らずにお店にご相談ください。

5 前ブレーキ

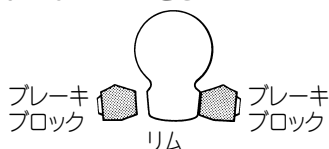
前ブレーキの取り付け部のネジがゆるんで、前ブレーキがガタガタしていないか確認します。また、ブレーキをかけたとき、ブレーキシューが正しくリムに当たることを確認します。



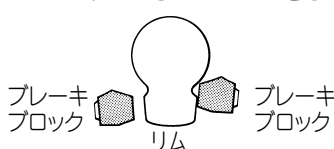
つぎの場合にはお店にご相談ください

強制

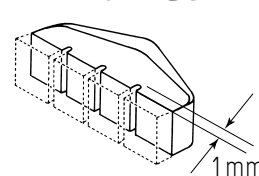
◆ブレーキシューがリムに当たったままになっているとき



◆ブレーキをかけた状態でブレーキシューがリムからズレているとき



◆ブレーキシューが摩耗して、溝の残りが1mmになったとき



◆アジャストボルトで調整しきれないとき

◆ブレーキの効が悪くなったとき

6 ブレーキレバーの状態

●握りしろ

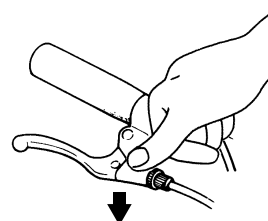
前後のブレーキレバーを握って、レバーとハンドルグリップとの間が約 $\frac{1}{2}$ でブレーキがきくかを確認します。ブレーキレバーの握りしろが大きすぎるときも小さすぎるときも、販売店で点検・調整を受けてください。



●レバーの固定

前後のブレーキレバーを指で押して、ブレーキレバーが動かないことを確認してください。

異常が認められた場合は、販売店にて点検・調整を受けてください。



乗車前点検

警告

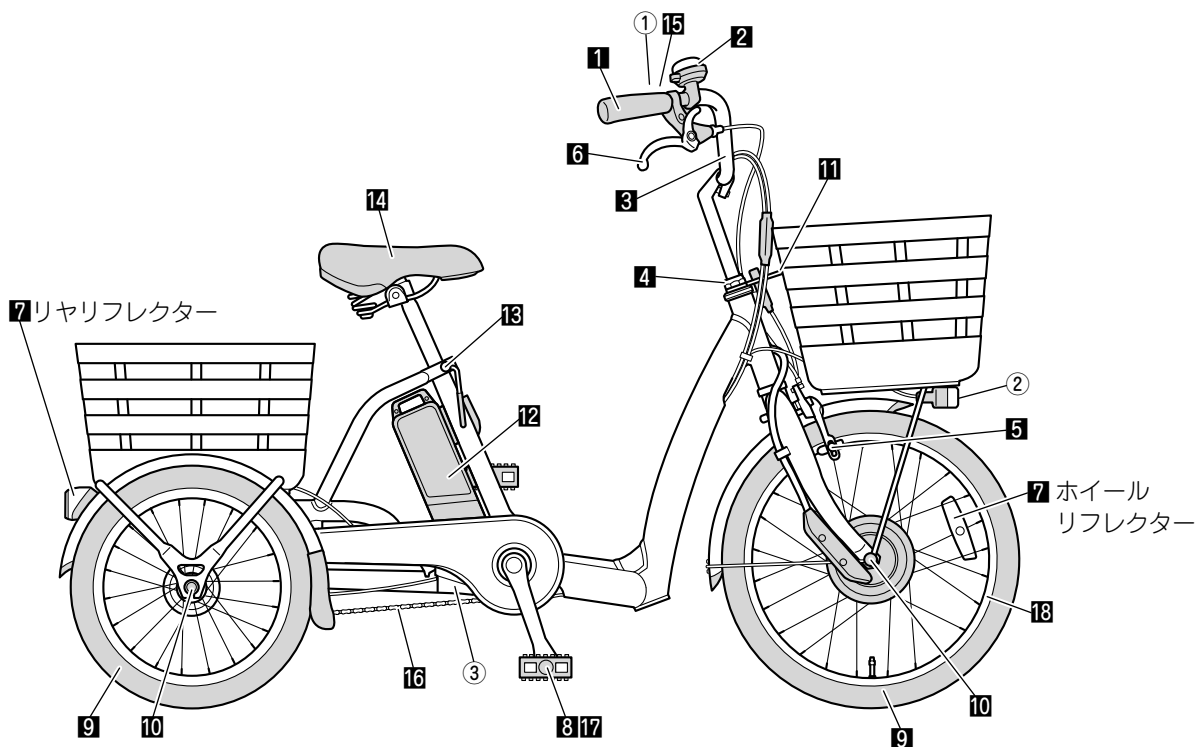
- 乗車前点検を必ず実施してください。
- 点検で異常が認められた場合は、すみやかに販売店で点検してください。
- わからないことや難しいと感じた時は、販売店にご相談ください。

要点

メインスイッチの電源を切った状態で点検してください。



- 走行前に確認を行う項目 **1～18**
- 走行開始してすぐに確認する項目 ①～③



自転車のイラストは代表例です

- 7** フロントリフレクター、リヤリフレクター、ホイールリフレクターのよごれ・破損 …
リフレクターに汚れや破損がないか点検します。よごれている場合は拭き取ってください。
また、破損している場合は交換します。

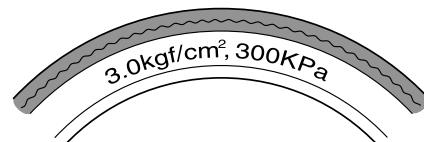
- 8** ペダル他、可動部のがたつき ……………
ペダルなど可動部に、異常ながたつきがないか、滑らかに回転するか確認します。がたついている場合はボルトなどの増し締めをします。

9 タイヤの空気圧、摩耗、損傷

十分空気が入っていて、タイヤ側面に表示されている推奨空気圧になっているか確認します（図の数値は表示の例です）。空気圧が適正値でないと、パンクや車体各部のがたつきの原因になります。その他に、タイヤが摩耗していないか、釘などの異物がささっていないか確認します。

《空気圧の簡易判定のしかた》

自転車に乗車した状態での接地面の長さで空気圧を判定してください。

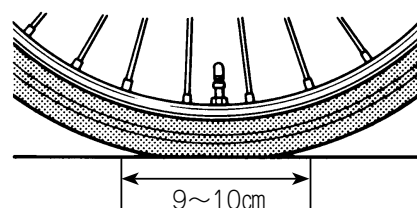


《タイヤ空気圧表示例と換算値》

1KPa=0.01kgf/cm²=0.145PSI

KPa	kgf/cm²	PSI
300	3.0	43.5
450	4.5	65
690	6.9	100

一般のシティ車は3kgf/cm²（3気圧）が適正空気圧です。



10 前後車軸とスポークの状態

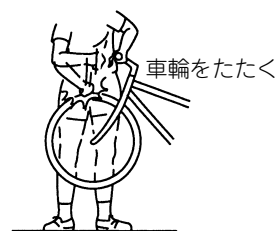
前後車輪の、固定、振れ、ガタ、回転性と、スポークやニップルの切れ、外れ、変形がないことを確認します。

①前後車輪の固定

自転車を持ち上げて車輪を上から強くたたいて、車輪がズレたりガタついたりしないか確認します。

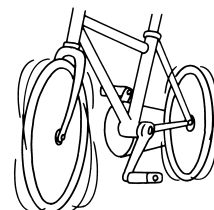
⚠ 警告

ズレやガタがあると、走行中に外れて、事故・けがを起こすおそれがあります。



車輪をたたく

↑
車輪を地面から浮かす

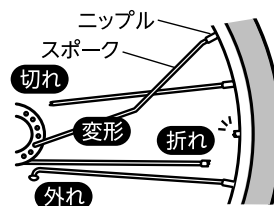


②前後車輪の振れ、ガタ、回転性

自転車を持ち上げて車輪を回してみても、スムーズに回転し大きな振れやガタがないか確認します。

③スポークやニップルの切れ、外れ、変形

スポークやニップルの切れ、外れ、変形を確認し、みつかった場合は早急に交換してください。



⚠ 警告

ホイールが変形し、ブレーキと接触して走行性が損なわれ、転倒するおそれがあります。スポークが一本でも外れたまま走行を続けると、他のスポークに大きな負担が繰り返し加わり、スポーク寿命が低下し、スポーク切れが継続して発生する場合があります。スポークは全て交換することをお勧めします。

11 リモコンFロック（前輪錠の作動）

リモコンFロックが滑らかに作動するか確認します。

乗車前点検

警告

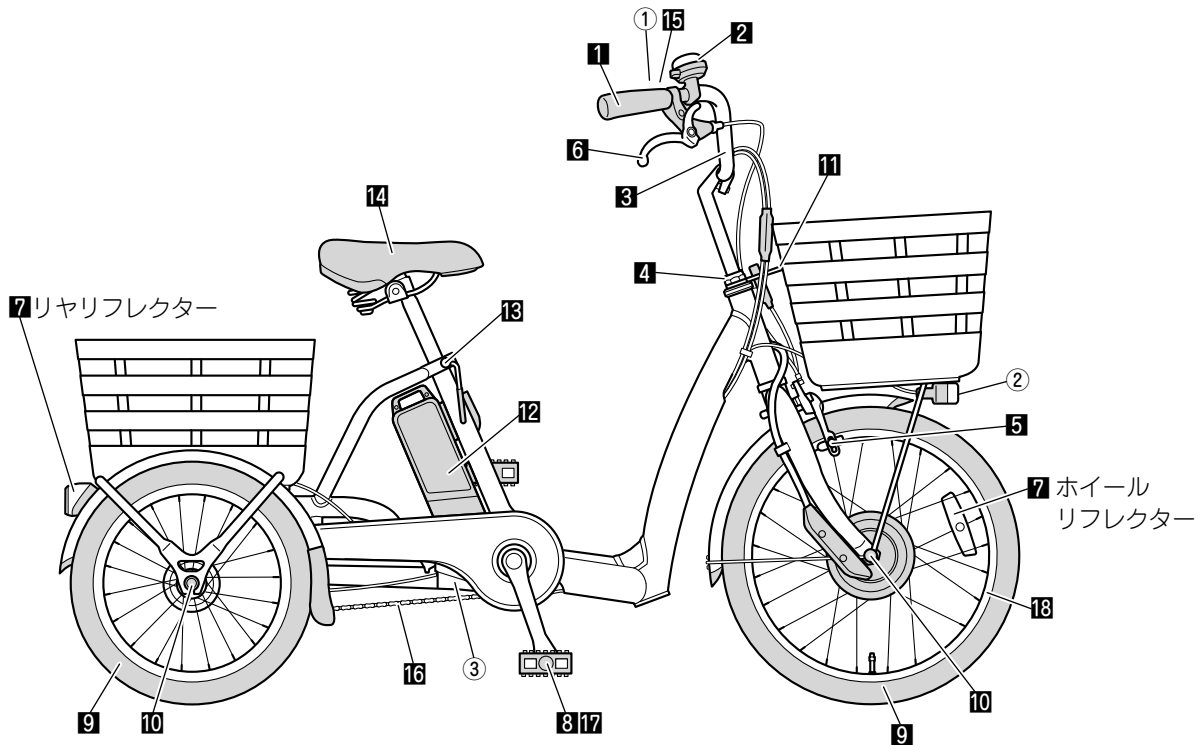
- 乗車前点検を必ず実施してください。
- 点検で異常が認められた場合は、すみやかに販売店で点検してください。
- わからないことや難しいと感じた時は、販売店にご相談ください。

要点

メインスイッチの電源を切った状態で点検してください。



- 走行前に確認を行う項目 **1～18**
- 走行開始してすぐに確認する項目 **①～③**



自転車のイラストは代表例です

12 バッテリーの取り付け

バッテリーが自転車にしっかりと固定されているか確認します。また、バッテリーロックからキーを抜き取っていることを確認してください。

13 サドルの高さを調整するシートピン

シートピンがゆるんでいないか確認します。

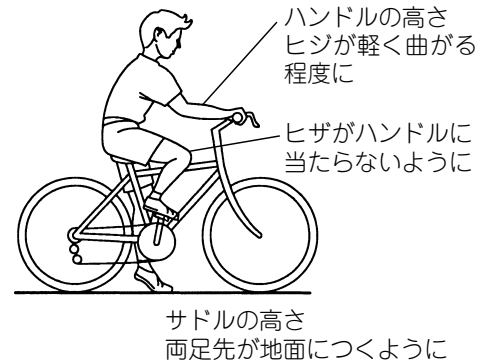
14 サドルの状態

適切なサドル高さは、サドルにまたがった状態で両足のつま先がともに地面につくくらいの状態です。また、サドルの固定に異常（ゆるみやがたつき）がないかを確認します。

正しい乗車姿勢

サドルに腰をおろし両手をにぎりにおいた状態で、

- ①両足先が確実に地面につくこと。
- ②上半身が少し前に傾き、ヒジが軽く曲がること。
- ③ペダルをこいだときヒザがハンドルに当たらず、安全にハンドルの操縦操作ができること。
- ④円滑にペダルをこぐことができ、ブレーキ、シフトレバー、ベルなどが安全に操作できること。



サドルの調整のしかた

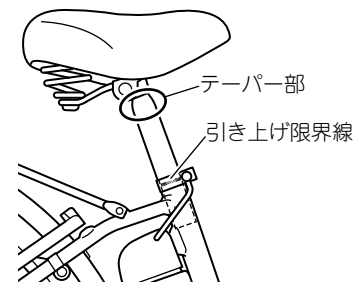
⚠ 警告

調整後は、確実に固定されているか確認してください。固定が不十分であると、運転できなくなり、事故・けがのおそれがあります。

サドルの高さ調整

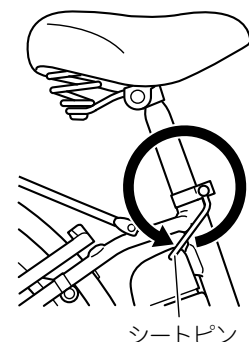
⚠ 警告

- サドルの高さ調整は運転中に行わないでください。
- サドルを高くする場合は、引き上げ限界線がフレームからはみださないようにしてください。シートポストが破損したり、脱落するおそれがあります。
- サドルを低くする場合は、シートポストのテーパ部（細くなっている部分）をフレームの中に入れてください。サドルが確実に固定されず、けがをするおそれがあります。



《回転式シートピンの場合》

- ①シートピンのレバーを矢印の方向に回し、サドルの高さを調節します。
- ②調整後はシートピンのレバーを確実に締めつけてください。（締付トルク：10～12N・m）
- ③シートピン締め付け後、サドルが確実に固定されていることを確認してください。



乗車前点検

警告

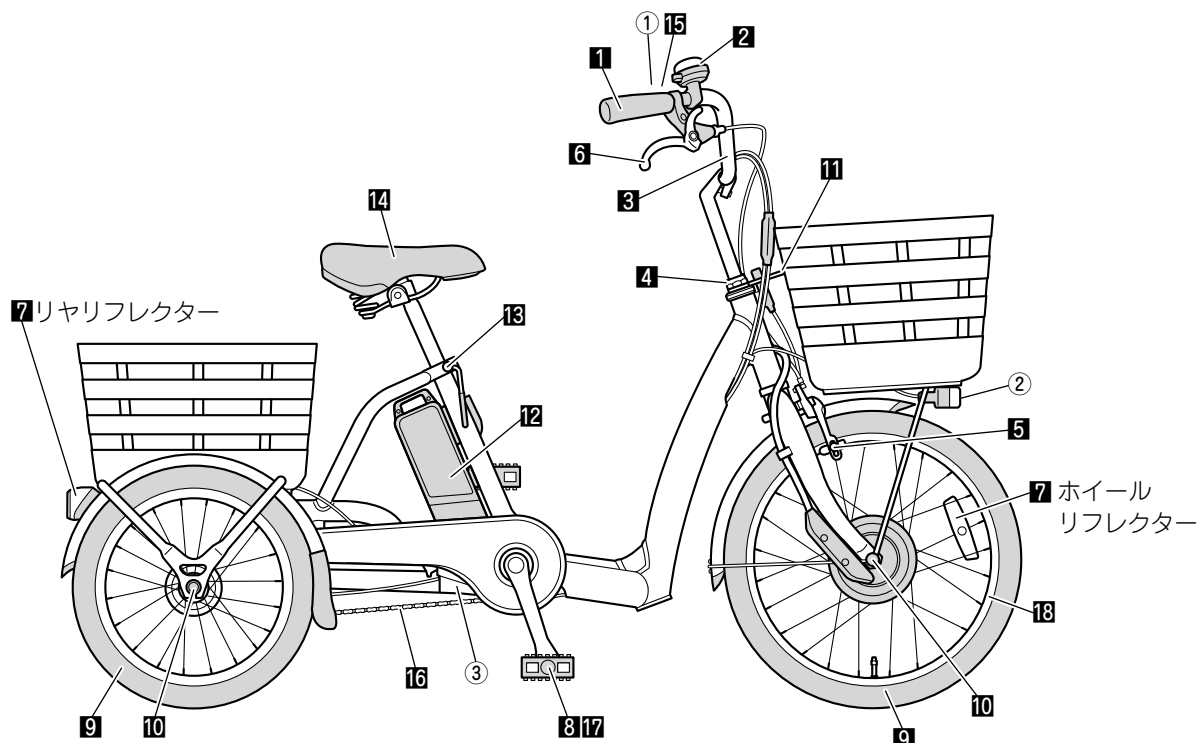
- 乗車前点検を必ず実施してください。
- 点検で異常が認められた場合は、すみやかに販売店で点検してください。
- わからないことや難しいと感じた時は、販売店にご相談ください。

要点

メインスイッチの電源を切った状態で点検してください。



- 走行前に確認を行う項目 **1～18**
- 走行開始してすぐに確認する項目 **①～③**



自転車のイラストは代表例です

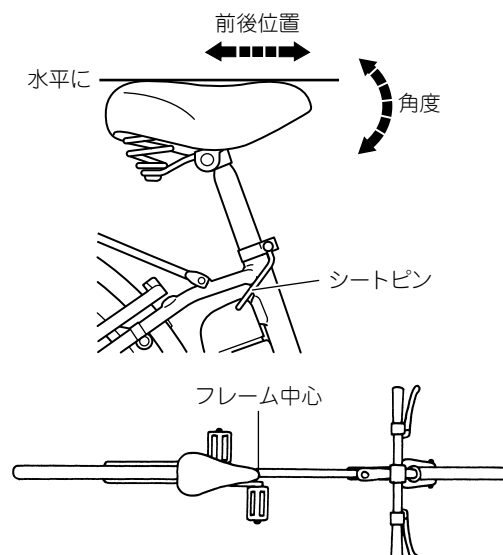
サドルの前後調整と取付角度

ペダルをななめ前のいちばん力を入れやすい位置にして足を乗せたとき、ひざの中心の真下にペダルの中心があるのが最適です。

サドルの取付角度は、サドル上面がほぼ水平になるようにしてください。

水平でないとサドル固定部に大きな負担がかかり、こわれやすくなります。

※サドルがフレーム中心と合っていることを確認してください。



15 バッテリーの残量

メインスイッチの電源を入れると、バッテリー残量ランプが表示されるので目安を確認します。

16 チェーンのたるみ

- 油切れがなく、指で動かしてみたとき滑らかに動くかを確認します。
- チェーンが大きいたるんでいないかを確認します。(自転車を10cmほど持ち上げて軽く落としたとき、チェーンがフレームやチェーンケースに強く当たるほどたるんでいないこと)

⚠ 警告

チェーンのたるみが大きくなると、走行中にチェーンが外れやすくなり危険であるので、すぐに販売店で調整を受けてください。

17 電動アシストシステムの作動

メインスイッチの電源を入れた状態で、ペダルを踏み込み発進させ、電動アシストシステムが作動するか確認します。

18 リムのブレーキ面磨耗

変形、ふくれ、キズ、ひび、きれつ、振れ、汚れがないことを確認します。

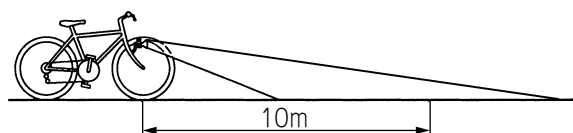
① 変速機の作動

走行時に変速操作をしても変速機が作動しないなど、変速機に異常を感じた場合は購入したお店にご相談ください。

② 前照灯の点灯／照射角度

※この点検はメインスイッチの電源を入れて行ってください。

前照灯の照射状態は、10m前方の路面部に光軸中心があるか確認します。



⚠ 注意

歩行者や対向車がまぶしく感じる恐れがあるため、ランプ取付角度は水平以上とならないように取り付けてください。

メインスイッチの【モード切替／ライトボタン】で前照灯(ライト)が点灯、消灯します。もし点灯しない場合は、購入したお店にご相談ください。

③ 電動アシストシステムの作動

発進時、電動アシストシステムの作動に異常がないか確認します。電動アシストシステムから通常発生しない異音、煙や異臭の発生など異常が認められたときは、ただちに使用をやめ購入したお店にご相談ください。

⚠ 注意

電動アシストシステムは精密部品です。分解などは決して行わないでください。もし、異常が認められる場合はただちに使用をやめ購入したお店にご相談ください。

バッテリー残量の確認

バッテリー残量の見かた

電動アシスト自転車に乗る前には必ず、バッテリーの残量を確認しましょう。

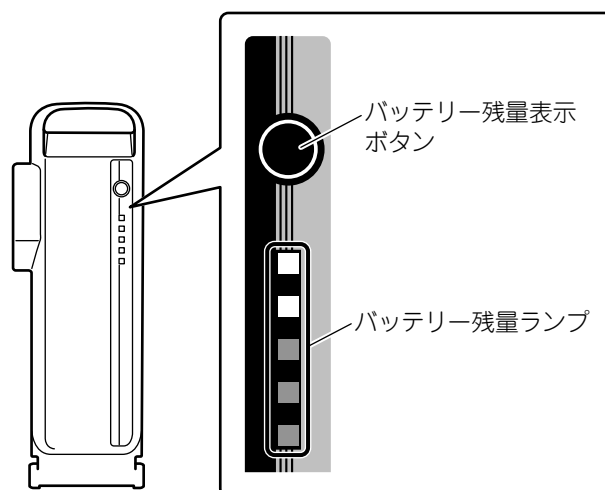
バッテリーにどの程度の容量が残っているか、どの程度充電されているかの目安を確認することができます。確認はメインスイッチのバッテリー残量表示と、バッテリーのバッテリー残量ランプのいずれかで行うことができます。

メインスイッチのバッテリー残量表示は、電源を入れたと表示します。



バッテリーのバッテリー残量ランプを確認するときは、バッテリー残量ランプの上側のバッテリー残量表示ボタンを押します。

(バッテリーが車載状態でも、車両から取り外した状態でも同じです。)












要点

- メインスイッチの電源が入っているときは、バッテリーのバッテリー残量ランプは表示しません。メインスイッチのバッテリー残量表示をご確認ください。

バッテリー残量の確認

メインスイッチのバッテリー残量表示の目安







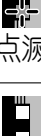
メインスイッチの バッテリー残量表示	バッテリー残量の目安	バッテリーの状態
	96～100%	バッテリー残量の目安が100% (FL) から21%の間は、5%ずつ減少しながら点灯表示していきます。
 }	91～95%	
	21～25%	
 }	20%	バッテリー残量の目安が20%から11%の間は、1%ずつ減少しながら点灯表示していきます。
	11%	
 遅い点滅 (0.8秒間隔) }	10%	バッテリー残量の目安が10%から5%の間は、1%ずつ減少しながら遅い点滅表示していきます。 バッテリー残量がわずかな状態です。
 遅い点滅 (0.8秒間隔)	5%	
 遅い点滅 (0.8秒間隔)	1～4%	0%を遅い点滅表示します。 バッテリー残量がわずかな状態です。
 速い点滅 (0.2秒間隔)	0%	0%を速い点滅表示します。 バッテリー残量が0 (ゼロ) になりましたので 充電してください。

要 点

- バッテリーの容量が0 (ゼロ) になっても普通の自転車として走行することができます。
- 古くなったバッテリーを使用していると、充電直後でも発進時にバッテリー残量表示が急激に少なく表示することがありますが、故障ではありません。走行が安定し負荷が少なくなれば適切な数値を表示します。
- リチウムイオンバッテリーは、ニッカドバッテリーやニッケル水素バッテリーにあるメモリー効果がありませんので継ぎ足し充電が可能です。
- 長期間放置した電池は保護機能により電源が入らなくなる場合があります。その場合は充電器に一旦接続すると保護機能が解除されます。

バッテリー残量の確認

バッテリーのバッテリー残量ランプの目安

バッテリー残量ランプの表示	バッテリー残量の目安	バッテリーの状態
	100～80%	残量ランプが1灯ずつ消灯していきます。
	79～60%	
	59～40%	
	39～20%	
	19～10%	
 1灯目の遅い点滅〈0.5秒間隔〉	10%未満	バッテリー残量がわずかな状態です。
 1灯目の速い点滅〈0.2秒間隔〉	0%	バッテリー残量が無くなりましたので、充電が必要です。













要 点

- バッテリーの容量が0(ゼロ)になっても普通の自転車として走行することができます。
- リチウムイオンバッテリーは、ニッカドバッテリーやニッケル水素バッテリーにあるメモリー効果がありませんので継ぎ足し充電が可能です。
- 長期間放置した電池は保護機能により電源が入らなくなる場合があります。その場合は充電器に一旦接続すると保護機能が解除されます。

走行モードについて

走行モードの使い分けかた

走行状況に合わせて、強モード、弱モードの走行モードが選べます。
イラストは走行状態の違いによるアシスト力の変化を示しています。

走行モード	特徴	アシスト制御イメージ			
		発進時	平坦路	ゆるい上り坂	きつい上り坂
					
強モード	急勾配坂道に				
弱モード	長距離走行に				
		最初のこぎ出しをアシスト	平坦路ではアシスト力を抑制	登坂に対向してアシスト力を増加	さらにアシスト力をアップし走行サポート

※イラストはイメージです。路面や風など走行条件により変化します。

強モード	いつも力強いアシスト力でサポートするモード	漕ぎだしやきつい上り坂など十分なアシスト力が必要なときに使います。
弱モード	節電し走行距離を伸ばすモード	長距離走行でも、アシスト力が欲しいときに使います。
アシストオフモード	アシスト機能を作動しないモード	メインスイッチは機能するが、通常の自転車走行をしたいときに使います。

走行モードについて

走行モードの表示

弱モード、強モード、アシストオフモードの各走行モードは、メインスイッチの走行モードランプの点灯常態で確認することができます。

弱モード	
強モード	
アシストオフモード	



走行モードについて

走行モードの切り替え

メインスイッチの【電源ボタン】を押して電源を入れます。
(電源が入っていると、ランプ類が点灯します。)

- 【モード切替／ライトボタン】を押すと[弱]→[強]の順で走行モードが切り替わります。
- 走行モードが[強]を表示しているときに【モード切替／ライトボタン】を押すと[弱]に切り替わります。
- 【モード切替／ライトボタン】を5秒以上長押しするとアシストオフモードに切り替わります。
※ 【モード切替／ライトボタン】を2秒押すとライトが動作(点灯／消灯)しますが、そのまま押し続けてください。
- 【電源ボタン】を1回押すと電源を切ることができます。

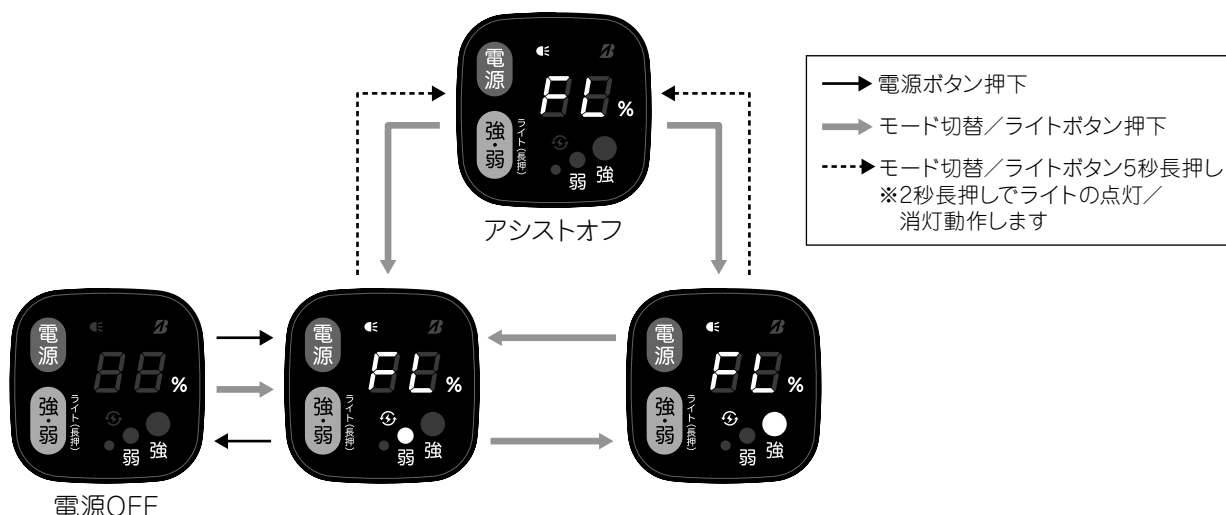


警告

ペダルに足を乗せたまま、メインスイッチの電源を入れないでください。

要点

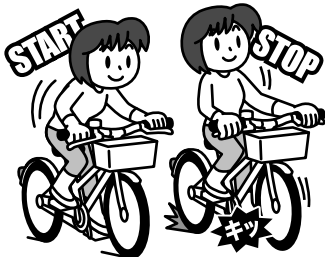



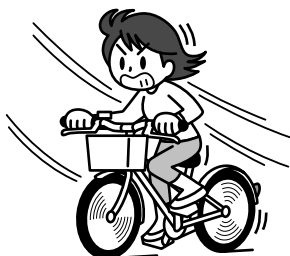

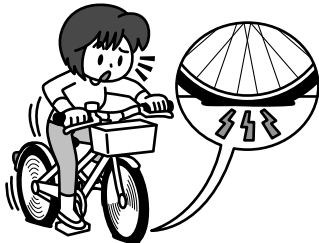
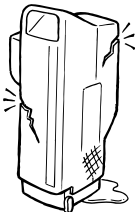
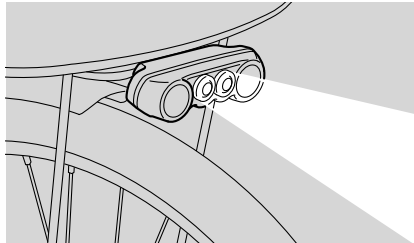
- 走行モードの切り替えは、走行中、停止中にかかわらずいつでもできます。
- 走行モードの切り替えとバッテリー残量表示の機能とは関係ありません。
- 電源を入れると、走行モードは[弱]で起動します。
- 電源オンは、【モード切替／ライトボタン】でもできます。
- アシストオフモードのときは走行モードランプは消灯します。
- アシストオフモードを起動すると、前照灯が点灯します。
- 自転車が停車した状態で、メインスイッチの操作と後ブレーキレバーの操作をおこなわずに3分経過すると、メインスイッチの回復量表示ランプが点灯し、それ以外のランプが消灯します。前照灯が点灯していたら、前照灯も消灯します。〔節電モード〕(P62)
- 節電モード作業中に、自転車を動かしたり、メインスイッチや後ブレーキレバーを操作したりすると、節電モードから復帰します。



走行モードについて

走行距離に影響を与える環境

以下の状況で走行した場合は、アシスト走行可能な距離が短くなる可能性があります。

 <p>発進・停止の頻度が高い</p>	 <p>積載物が重い(多い)</p>	 <p>急坂の登坂</p>
 <p>走行する路面の状態が悪い</p>	 <p>強風</p>	 <p>低温時</p>
 <p>タイヤの空気圧が低い</p>	 <p>バッテリーの性能が劣化している</p>	 <p>ライト(前照灯)が点灯している</p>

整備不良の場合にも、走行距離が短くなる可能性があります。

走行距離が短くなる整備不良の例：

- チェーンが滑らかに動いていない。
- 常時ブレーキが効いている。(引きずっている)

発進のしかた

乗る前に…

- 電動アシスト自転車に乗る前は必ず乗車前点検を励行しましょう。
(乗車前点検の点検項目はP40～P47をご参照ください。)

1

前輪鍵を開錠しましょう(P77)

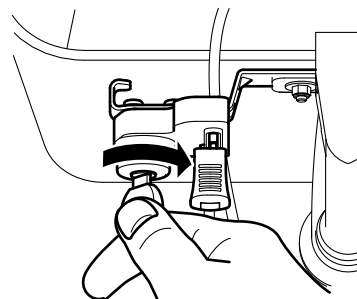
- 開錠後、キーは前輪鍵につけたまま走行します。

⚠ 警告

バッテリーロックのキーは必ず抜いてください。

⚠ 注意

走行中に車輪に巻き込まれやすいようなキーホルダーは付けないでください。



2

ペダルに足をかけないでメインスイッチの【電源ボタン】を押して、電源を入れます。必要に応じて走行モードの切替をします。

要点

- 走行中等ペダルに踏力をかけた状態で電源を入れますと、アシストが弱くなる場合があります。そのまま使用していただくとアシストは自動的に回復しますが、ペダルに踏力が加わらない状態で自転車を少し押し歩きしていただいてももとに戻ります。
- メインスイッチの電源を入れても、自転車が停車した状態が5分以上継続した場合、バッテリー消費を軽減するために自動的に電源が切れる機能を備えています。

【自動電源オフ機能】

但し、ペダルに踏力がかかっていない状態であっても、メインスイッチの操作をしたり、後ブレーキレバーの操作をしていれば電源は切れません。

- 自動電源オフ機能が作動した後でもメインスイッチの【電源ボタン】または、【モード切替／ライトボタン】を押すと、再び電源が入ります。
- メインスイッチの電源が切れている状態で【モード切替／ライトボタン】を押しても、電源が入ります。



モード切替／ライトボタン

発進のしかた

3

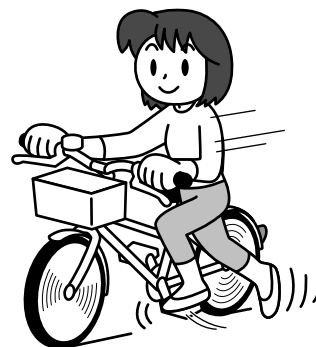
サドルに座り、ペダルに片足を乗せて発進の準備をします。走り出す前に前後左右の安全を確かめ、発進の合図をしてからペダルをゆっくりと踏み込みます。

電動アシストシステムはペダルを踏み込むと瞬時に作動します。走行中(電動アシスト及び回復充電機能の作動中)はモーターが作動しているため、モーター音が発生します。



警告

- けんけん乗り(片足をペダルに乗せて助走し、反動をつけてサドルに座る乗りかた)はしないでください。転倒や接触によって怪我をするおそれがあります。



- 空き地や公園などでよく練習し、電動アシストシステムを使用しての走行に十分に慣れてから一般道路でお乗りください。また、電動アシストシステムを使用しての走行に十分に慣れるまでは「弱モード」を使用することをおすすめします。



要点

発進時に瞬間的にペダルが重く感じた場合は、スリップ制御機能が作動している可能性があります。スリップ制御機能についてはP70をご参照ください。スリップ制御が作動しているときはメインスイッチのバッテリー残量表示に“SL”が3秒間早点減(0.2秒間隔)をします。



バッテリー残量表示に
“SL”が3秒間早点減
(0.2秒間隔)

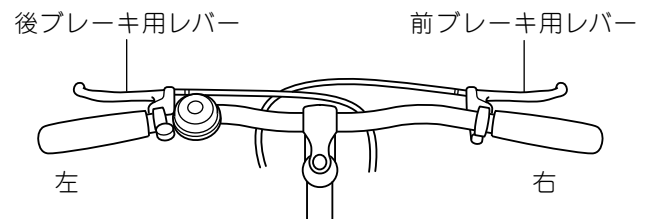
ブレーキ操作のしかた

ブレーキをかける時は、前後ブレーキを両方ともかけてください。

⚠ 注意

前ブレーキまたは後ブレーキだけ強くかけると、前輪または後輪がロックして操縦困難になったり、車体後部が持ち上がって転倒するおそれがあります。

できるだけ、急ブレーキはかけないように走行し、日ごろからブレーキのききぐあいを確認しておきましょう。



変速のしかた

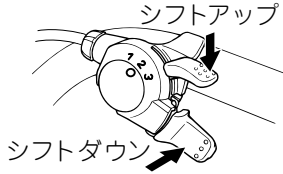
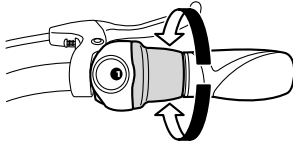
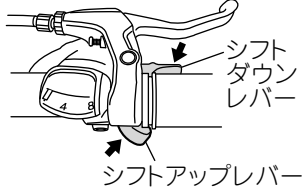
変速機の使い方

変速機は、「走る速さ」や「坂道」「風向き」などの走行条件の変化に応じてギヤ比を変え、ペダルの踏む速さと重さを一定にして、疲れを少なくすることができます。

変速グリップの使いかた

1 走行中の場合は、ペダルをこぐ足を止めます。

2 変速グリップは主に3種類あります。主なシフトレバーの操作方法是次の通りです。

変速機の種類	内装3段	内装3段 内装5段 内装8段	内装8段
シフトレバーの種類と操作方法	ダブルレバーA型 	グリップシフター型 	ダブルレバーB型 

⚠ 警告

- 交通量が少ない場所など安全な状況で操作するようにしてください。
- 走行中に変速グリップの操作を行う場合は、変速グリップの操作に気をとられて、前方不注意にならないように注意してください。

要 点

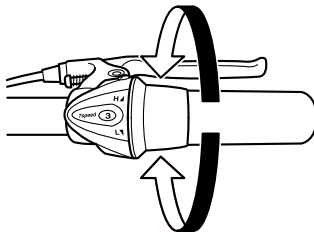
- ペダルをこいでいる状態では変速グリップを操作しても変速できないことがあります。無理に変速グリップを操作すると、異音がしたり変速装置が故障する場合があります。上り坂の手前で変速するようにしましょう。
- 空き地や公園などで十分に練習し、変速操作に慣れておきましょう。

道路状況に合わせて早めに変速することを心がけ、適切なシフト位置で走行するようにしましょう。

変速のしかた

適切なシフト位置

下表は、あくまで参考です。

走行状況の例 (ギヤの重さ)		スタート時、低速走行時、 上り坂、向かい風 (軽くしたいとき) ←		高速走行時、 下り坂、追い風 (重くしたいとき) →				
<div>シフト位置 (シフトレバーの表示)</div> 	3段	軽 1 (スタート)	中 2	速 3				
	5段	1	2	3	4	5		
	8段	1	2	3	4	5	6	7

前照灯について

オートライトシステム（前照灯の自動点灯・自動消灯）

電動アシスト自転車はオートライトシステムを装備しています。

照度センサーが周囲の明るさ（照度）を検出し、前照灯が自動で点灯・消灯します。前照灯が点灯しているときは、ライト点灯ランプも点灯します。



警告

前照灯が点灯した状態でのアシスト走行中にバッテリー残量が減少すると、まずアシスト走行ができなくなり、その後しばらくしてから前照灯も消灯します。走行開始前にバッテリー残量が十分にあることをご確認の上ご使用ください。

注意

前照灯の左右角度は調整することができません。無理に調整しようとして曲げたりすると破損の原因となります。

要点

- 照度センサーについた汚れはこまめにふき取ってください。照度センサー部が汚れていると、周囲の明るさ（照度）を検出しにくくなり、周囲が明るくても前照灯が点灯することがあります。
- 照度センサーをカバーなどで覆うと、周囲の明るさ（照度）を検出できないため、オートライトシステムが正常に作動しません。
- 前照灯が点灯しているときに【モード切替／ライトボタン】を長押しするか、【電源ボタン】を押し電源を切ると、前照灯は消灯します。
- 電源が切れているときは、オートライトシステムは作動しません。
- アシストをオフにした状態で前照灯を使用して走るときや、押し歩きをしながら前照灯を使用するときは、電源を切らずに走行モードをアシストオフモードに切り替えてください。
- 前照灯の取付角度を上下に調整する必要がある場合は、販売店にご相談ください。
- アシストオフモードを起動させた場合、メインスイッチの電源を切り、再度電源を入れるまでオートライトシステムは無効になります。
- 前照灯が点灯しているときに節電モードが起動すると、前照灯は消灯します。

前照灯について

前照灯の手動操作

【モード切替／ライトボタン】を2秒長押しすると、前照灯の点灯と消灯を切り替えることができます。前照灯が点灯しているときは、ライト点灯ランプも連動して点灯します。



⚠ 警告

前照灯が点灯した状態でのアシスト走行中にバッテリー残量が減少すると、まずアシスト走行ができなくなり、その後しばらくしてから前照灯も消灯します。走行開始前にバッテリー残量が十分にあることをご確認の上ご使用ください。

要 点

- 手動操作で前照灯を点灯または消灯させた場合、および、走行モードをアシストオフモードに切り替えた場合、メインスイッチの電源を切り、再度電源を入れるまでオートライトシステムは無効になります。
- 前照灯が点灯しているときに【モード切替／ライトボタン】を押すか、【電源ボタン】を押して電源を切ると、前照灯は消灯します。
- 電源が切れているときに【電源ボタン】又は【モード切替／ライトボタン】を押すとメインスイッチの電源が入り、オートライトシステムにより前照灯は作動します。
- アシストをオフにした状態で前照灯を使用しながら走るときや、押し歩きをしながら前照灯を使用するときは、電源を切らずに走行モードをアシストオフモードに切り替えてください。
- アシストオフモードを起動させた場合、メインスイッチの電源を切り、再度電源を入れるまでオートライトシステムは無効になります。
- 前照灯が点灯しているときに節電モードが起動すると、前照灯は消灯します。

メインスイッチの表示機能

自己診断機能

メインスイッチには、電動アシストシステムの自己診断機能を装備しています。

メインスイッチの電源を入れたときに電動アシストシステムに故障や異常があれば、バッテリー残量表示にエラー表示を行い異常をお知らせします。

異常表示・異常点滅の種類や対処方法については「メインスイッチが異常表示・異常点滅する」をご参照ください。

(P88)



メインスイッチのイベント表示機能

メインスイッチは車両の状態によりイベント表示をします。

スイッチの表示	車両の状態
 E1～E6点灯	エラー表示 ⇒電動アシストシステムに故障や異常が発生したときに表示します。異常表示・異常点滅の種類や対処方法については「メインスイッチが異常表示・異常点滅する」をご参照ください。(P88)
 回復量表示ランプが点灯し、その他のランプが消灯	節電モード表示 ⇒自転車が停車した状態で、メインスイッチの操作と後ブレーキレバーの操作をおこなわずに3分経過すると表示します。節電表示がでたときに前照灯が点灯していたら、前照灯が消灯します。
 走行モードのランプが遅点滅<0.8秒間隔>(弱モードの場合)	パワーセーブ表示 ⇒バッテリー、コントローラー、モーター等の温度保護制御機能が作動しアシスト出力を抑えているときに表示します。「ペダルが重い、アシストしない」をご参照ください。(P83)
 “SL” が3秒間早点滅<0.2秒間隔>	スリップ制御機能作動表示 ⇒スリップ制御機能が作動したときに表示します。スリップ制御機能についてはP70をご参照ください。

回復充電機能について

回復充電機能

本電動アシスト自転車は回復充電機能を装備しています。回復充電機能とはモーターユニットを発電機として働かせることで走行中のエネルギーをバッテリーに戻す(充電する)機能です。回復充電機能が作動すると電氣的な制動力が発生します。

⚠ 注意

- 回復充電機能が作動したときに発生する電氣的な制動力だけでは停止することはできません。停止するときは、必ず前後のブレーキを併用し、後ブレーキを先にかけてから前ブレーキをかけてください。
- バッテリーが満充電のときは、回復充電は作動しません。充電直後から回復充電機能を使用したい場合は【リミット充電モード】に切り替えることをお勧めします。(充電モードについてP31～P32)
- バッテリーの内部温度が著しく高い若しくは低い場合には、バッテリー保護のため回復充電機能は作動しません。

回復充電機能の種類

回復充電機能は3種類の機能があります。

- **ブレーキ回復充電機能**
後ブレーキのレバーを握ったときに、モーターユニットがブレーキ信号を検出して作動します。
- **平地自動回復充電機能**
走行中にペダルを漕がないと自動で作動します。
- **下り坂自動回復充電機能**
下り坂などでペダルを漕がない状態のまま、【ペダルを漕ぐのをやめたときの速度】または【後ブレーキレバーを離したときの速度】を上回ると自動で作動します。

要 点

〈回復充電機能共通〉

- 電源が切れているときは、回復充電機能は作動しません。
- バッテリーが満充電のときは回復充電機能は作動しません。また、満充電から少し減った状態では回復充電機能が弱くなる場合があります。
- バッテリー内部の温度が著しく低いもしくは高い場合は、バッテリーの保護のため回復充電機能は作動しません。
- 自転車の速度が低速もしくは高速で走行している場合は、回復充電機能が作動したときに発生する制動力は弱くなります。
- 回復充電機能の最大能力(制動力)は以下の通りです。
ブレーキ回復充電機能＝下り坂自動回復充電機能(強)＞平地自動回復充電機能＝下り坂自動回復充電(弱)

〈ブレーキ回復充電機能〉

- ブレーキ回復充電機能は、前ブレーキのレバーを握っても作動しません。

回復充電機能について

回復充電機能の種類（つづき）

〈平地自動回復充電機能〉

- 平地自動回復充電機能は、通常、作動中にペダルを踏み込むと待機状態になり、その状態から漕ぐことをやめると再び作動します。ただし、ペダルを力をかけず漕ぐ（逆回転含む）ことで、機能を停止させることができます。

※乗り方で意図的に制動力を働かなくさせることができます

ペダルを踏み込んで乗る場合

漕ぐことをやめる（作動）⇒踏み込む（待機状態）⇒漕ぐことをやめる（作動）

ペダルに力をかけず漕ぐ場合

漕ぐことをやめる（作動）⇒力をかけず漕ぐ（機能停止）⇒漕ぐことをやめる（機能停止継続*）

*機能停止が継続した場合、走行中、止まった状態問わず、ペダルを踏みこむか、後ブレーキレバーを握ってください。再び平地自動回復充電機能が作動する待機状態になります。

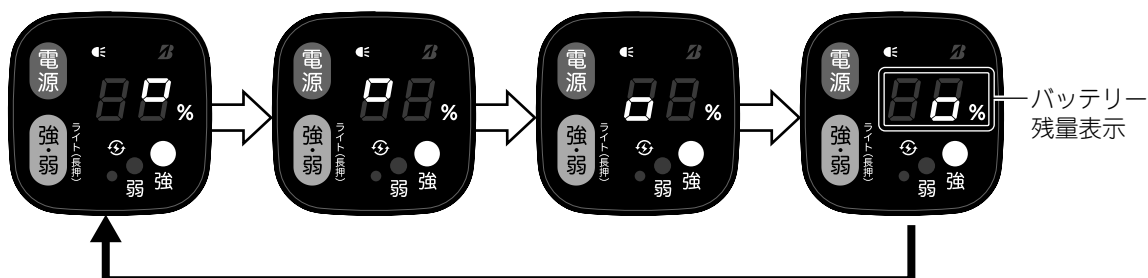
- 6km/h未満の走行では、ペダルを漕がなくても待機状態となり、作動しません。

〈下り坂自動回復充電機能〉

- 下り坂自動回復充電機能は下り坂での速度の上昇を抑制する機能になります。
平地での惰性走行時は作動しません。
- 下り坂を走行中の場合でも、ペダルをこいでいるときは下り坂自動回復充電機能は作動しません。
- 6km/h未満の走行では、ペダルを漕がなくても作動しません。

回復充電機能の表示

回復充電機能が作動すると、メインスイッチのバッテリー残量表示が以下の表のように表示します。



⚠ 警告

走行中はメインスイッチの表示に気をとられ前方不注意により、転倒や衝突によるけがのおそれがあります。

回復充電機能について

回復量表示について

回復充電機能が作動して、一定量以上（平地を走行していて停止する）の電力が回復された場合、メインスイッチの回復量表示ランプが点灯します。

- 充電された電力は、電動アシスト自転車のアシスト駆動に使用して消費されると消灯します。長く回復充電機能が作動して多くの電力が充電されれば、回復量表示ランプはその分長く点灯します。
- 回復量表示ランプが点灯中にメインスイッチの電源を切った場合、充電された電力量の情報は保存され、電源を入れなおしたときに回復量表示ランプが点灯します。



回復量表示ランプ

要 点

回復充電機能が作動しない状態では回復量表示機能は使用できません。回復充電機能が作動しないのは以下の状態です。

- 電源が切れているとき
- バッテリーが満充電のとき
- バッテリー内部の温度が著しく低いもしくは高いとき

回復率について

この電動アシスト自転車には、回復充電機能の効果を確認する目安として回復率^{※1}をメインスイッチに表示する機能があります。

※1 回復率とは電源を入れてから電源を切るまでの間にアシスト駆動に使用した電力と回復充電機能で充電された電力の比率（0～99％）となります。

$$\text{回復率 (0～99\%)} = \frac{\text{回復充電機能で充電された電力 (Wh)}}{\text{アシスト駆動で使用了電力 (Wh)}} \times 100 (\%)$$

回復率の表示方法について

回復率を表示する場合の手順を説明いたします。

- 1 メインスイッチの電源をONにして、通常走行をしてください。



回復充電機能について

2

走行終了後、に回復率を確認したいときは、【電源ボタン】と【モード切替／ライトボタン】を同時に5秒間長押しします。



3

今回の走行における回復率がバッテリー残量表示に表示されます。(0~99%)



4

この状態で【モード切替／ライトボタン】を押すことで、1回前、2回前、3回前までの回復率の履歴をメインスイッチのバッテリー残量表示で確認することができます。一定時間、【モード切替／ライトボタン】の操作がなければ、メインスイッチの表示は通常に戻ります。

注意

ボタン操作は、必要以上に長時間押し続けたり、途中放置しないでください。
操作エラーになる可能性があります。



モード切替／ライトボタン
2回前の回復率

要点

回復率を計測する期間内に回復充電機能が作動しない状態があった場合、回復率が低くなる傾向がありますが故障ではありません。なお回復充電機能が作動しないのは以下の状態です。

- 電源が切れているとき
- バッテリーが満充電のとき
- バッテリー内部の温度が著しく低いもしくは高いとき

回復充電機能について

回復充電機能の設定について

本電動アシスト自転車は自動で作動する回復充電機能を設定により変更できます。各モードにより回復充電機能が作動したときの制動力の強さがことなりますので、電動アシスト自転車の使用環境に応じて、設定を変更してください。

モード	回復充電機能	お勧めの環境
0L	平地自動回復充電機能(切) 下り坂自動回復充電(弱)	郊外や、平坦な道が多い環境
1L	平地自動回復充電機能(入) 下り坂自動回復充電(弱)	市街地や、平坦な道が多い環境
1H	平地自動回復充電機能(入) 下り坂自動回復充電(強)	坂道や、長い下り坂が多い環境

自動回復充電機能	制御力
平地自動回復充電機能	弱
下り坂自動回復充電機能(弱)	弱
下り坂自動回復充電機能(強)	強

要 点

- 出荷時の設定は【1L】にしています。
- 後ブレーキレバーを操作したときの【ブレーキ回復充電機能】が作動したときに発生する制動力には反映されません。

⚠ 注 意

- 回復充電機能が作動したときに発生する電氣的な制動力だけでは停止することはできません。停止するときは、必ず前後のブレーキを併用し、後ブレーキを先にかけてから前ブレーキをかけてください。
- バッテリーが満充電のときは、回復充電は作動しません。充電直後から回復充電機能を使用したい場合は【リミット充電モード】に切り替えることをお勧めします。(充電モードについて P31～P32)
- バッテリーの内部温度が著しく高い若しくは低い場合には、バッテリー保護のため回復充電機能は作動しません。

回復充電機能について

回復充電機能の設定変更の方法について

回復充電機能の設定を変更する場合の手順を説明いたします。

⚠ 注意

必ず電動アシスト自転車が停止し、ペダルが回転していない状態で実施してください。

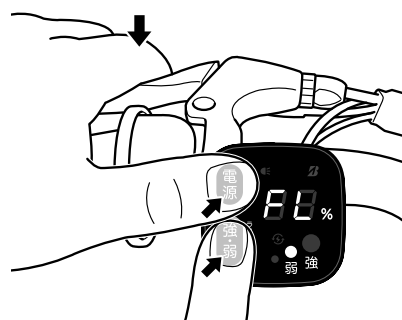
- 1** メインスイッチの電源をOFFにしてください。



- 2** メインスイッチの電源を入れてください。
【電源ボタン】、もしくは【モード切替／ライトボタン】
を押して指を放します。



- 3** 【後ブレーキレバー】を握りながら、【電源ボタン】と
【モード切替／ライトボタン】を同時に3秒間長押しを
します。



バッテリー残量表示に“0L”か“1L”または“1H”が表示されます。

⚠ 注意

初期は「モード“1L”」に設定しています。



回復充電機能について

4

この時のバッテリー残量表示が、回復充電機能の設定モードを表しています。

バッテリー残量表示	回復充電機能の設定
	平地自動回復充電機能(切) 下り坂自動回復充電(弱)
	平地自動回復充電機能(入) 下り坂自動回復充電(弱)
	平地自動回復充電機能(入) 下り坂自動回復充電(強)

- 【モード切替／ライトボタン】を押すことで、回復充電機能の設定モードの切り替えができます。
- 設定モードの切り替えが完了したら【電源ボタン】を押してください。
設定モードが決定され電源がOFFになります。

⚠ 注意

- バッテリー残量表示に上図のような表示がされない場合は、いったん電源をOFFにしてから、最初からやり直してください。
- 指示されたボタン以外は押さないでください。
- ボタン操作は、必要以上に長時間押し続けたり、途中放置しないでください。操作エラーになる可能性があります。

スリップ制御機能について

本電動アシスト自転車はスリップ制御機能を装備しています。スリップ制御機能とは、前輪の空転を検出した瞬間にアシスト力を抑えることで、前輪の空転を抑制する機能です。

マンホールやアスファルトのつなぎ目などの滑りやすい路面や、小石や砂が集まりやすい車道脇など路面が急に変化したときに、前輪が空転すると転倒の危険がありますが、前輪の空転を抑制することでスリップを防止します。

⚠ 警告

- スリップ制御機能は前輪の空転を抑制するもので、スリップの発生を完全に防止するものではありません。
- 積雪や凍結した道、濡れている鉄板やマンホール、ぬかるみ、歩道の点字ブロックなど滑りやすいところでは自転車から降りて、押して歩くようにしてください。

要 点

- 電源が切れているときはスリップ制御機能は作動しません。
- 発進時や走行時に瞬間的にペダルが重く感じた場合は、スリップ制御機能が作動している可能性があります。

スリップ制御機能の表示

スリップ制御機能が作動すると、バッテリー残量表示に“SL”が3秒間速い点滅（0.2秒間隔）をします。



“SL”が3秒間速い点滅
(0.2秒間隔)

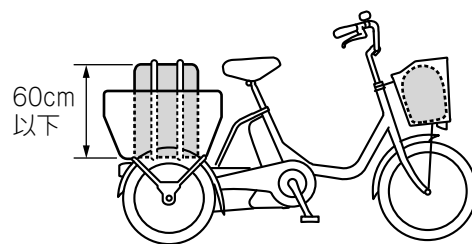
荷物の積載

荷物の積みすぎには注意しましょう。

電動アシスト三輪車の最大積載重量（乗員の体重と積載重量の合計）は85kgです。また、フロントバスケットおよびリヤバスケットそれぞれの最大積載重量と積載物の大きさの限度は下表のとおりです。荷物を積みすぎるとアシスト走行時にバッテリーに過大な負荷をかけてしまいアシスト走行可能な距離が短くなる可能性があります。また、常に重い荷物を積んだ状態で走行しているとタイヤなどの部品の消耗が早くなる場合があります。

● 荷物の重量と大きさ

最大 積載重量	前バスケット	3kgまで
	後バスケット	17kgまで
積載物の 大きさ限度	前バスケット	高さ・前後・左右共、バスケットからはみ出さないこと。
	後バスケット	高さ60cm以下で、前後左右はバスケットからはみ出さないこと。



- この自転車にはチャイルドシートは取り付けできません。

⚠ 警告

- 荷物の大きさや重さが表の内容を超えて積載すると、自転車の安定性が損なわれ、転倒・事故を起こす恐れがあります。表の内容を超えないでください。
- 積載条件を超えない荷物でも、通常より重い荷物を積載するときは、荷物を積まない場合に比べて、操舵性や制動性能が異なります。安全の確保できる場所で、十分練習してから乗車しましょう。個人差がありますので、積載可能な条件の範囲であっても、運転に不安を感じる場合は使用しないでください。
- フロントバスケットまたはリヤキャリアに荷物を積むときは、左右のバランスをとって積んでください。また、荷物がずれたり動いたりしないよう、しっかりと固定してください。荷物が動くと走行が不安定になり、転倒などの事故につながるおそれがあります。
- リヤキャリアに荷物を積む時は、固定用のひも・ベルトでしっかりと固定し、ひも・ベルトがたるまないようにしてください。（車輪への巻き込み防止）
- 個人差があるため、表に記載の積載条件内の場合でも、運転に不安を感じた場合は、そのまま使用しないでください。

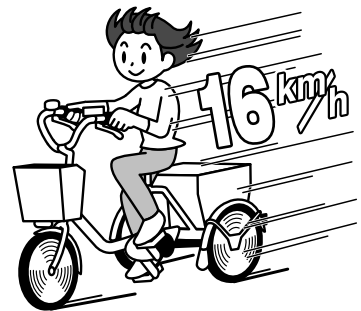
⚠ 注意

- 空荷や幼児を同乗していない場合の制動時は、荷物積載時等に比べて、操舵性や制動性能が変化します。（予め安全な場所で制動力の違いを確認してからご使用ください）
- 荷物を積載するときは、フロントバスケット、フロントキャリア、リヤキャリア以外は使用しないでください。

アシストが作動しない環境

こんなときは電動アシストシステムは作動しません。

- 走行速度が時速16km/h以上の場合
- ペダルをこいでいないとき
- アシストオフモードのとき



- バッテリー残量がなくなったとき
(メインスイッチのバッテリー残量表示が0(ゼロ)を早点減することでお知らせします。)



- メインスイッチの電源を入れても、自転車を停車した状態が5分以上継続したとき。【自動電源オフ機能】
※ただし、自転車が停止した状態であっても、メインスイッチの操作をしたり、後ブレーキの操作をしていれば電源は切れません。
※自動電源オフ機能が作動した後でもメインスイッチの【電源ボタン】または【モード切替／ライトボタン】を押すと、再び電源が入ります。



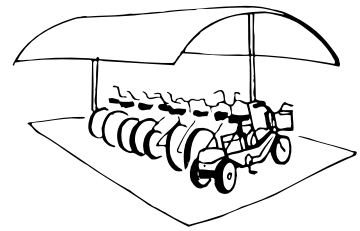
- 後ブレーキレバーをひいているとき

駐輪のしかた

1

電動アシスト三輪車を停車させます。

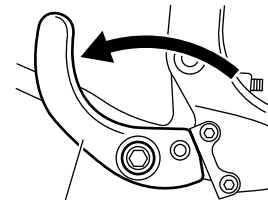
平坦で安定のよい場所に電動アシスト自転車を停車させパーキングブレーキをかけ、動かないことを確認します。



● パーキングブレーキをかけるには

パーキングレバーの操作は両手を使って行います。

- ①右手で右(前)ブレーキレバーを力いっぱい握ったまま
- ②左手でパーキングレバーをロック位置まで回すとブレーキがかかったままの状態になります。

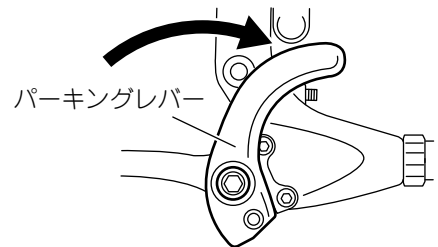


パーキングレバー

ロック位置

● パーキングブレーキを解除するには

- ①右手で右(前)ブレーキレバーを力いっぱい握ったまま
- ②左手でパーキングレバーを解除位置まで戻すとパーキングブレーキが解除されます。



解除位置

⚠ 警告

- 駐輪するときは、平坦で硬い路面に駐輪してください。また、駐輪後に自転車から離れるときは、自転車が安定して動かないことを確認してください。
- 傾いた路面や、砂利などの柔らかな路面に駐輪すると、自転車が動き出したり、転倒したりして事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意

- 走行直後のブレーキドラム部に手を触れないでください。
ブレーキを頻繁に使用した場合、ドラム部が高温になることがあります。

2

メインスイッチの電源を切ります。

メインスイッチの【電源ボタン】を押して、電源を切ります。

要点

電動アシスト自転車は前進に比べ後進時はわずかに重くなります。

駐輪のしかた

3

リモコンロック(前輪錠)をかけましょう。(P75~P77)

駐輪時や保管時には、盗難予防のために必ずリモコンロック(前輪錠)をかけましょう。

要 点

駐輪は必ず決められた場所へ

- 駐輪は、歩行者や自動車の迷惑にならない場所を選びましょう。
- 駐輪禁止の場所には停めないでください。
- 駐輪時は盗難予防のため、必ずリモコンロック(前輪錠)をかける習慣をつけましょう。
- 電動アシスト三輪車が不用意に動き出さないよう必ずパーキングブレーキをかけましょう。
- 予備キーは紛失しないように別の場所に大切に保管してください。
- 公の場所に長時間放置しないでください。



メインスイッチの電源は切ってください

- メインスイッチの切り忘れは、バッテリーの放電をはやめます。このため次回乗車時に充電不足により電動アシストシステムが作動しなくなることがあります。

リモコンFロック（前輪錠）の使いかた

「リモコンFロック」は、前輪の施錠・開錠をバスケット後の操作部からリモコン操作できる前輪錠です。

ご使用の前にこの説明書をよくお読みいただき正しくお使いください。

使用上のご注意

⚠ 警告

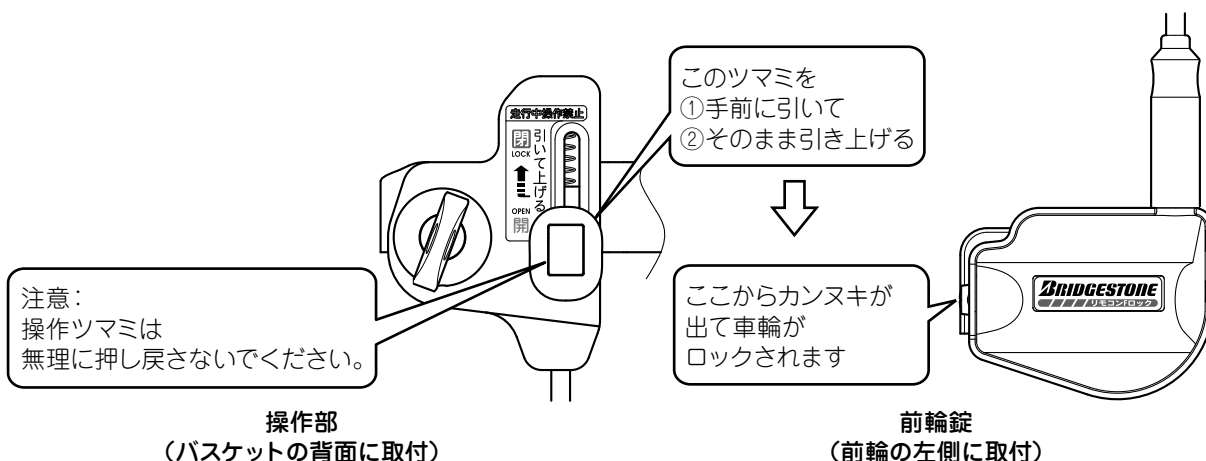
- 走行中は絶対に操作しないでください。
前輪が急ロックして転倒する危険性があります。
- 操作部及びツマミには物を引掛けたりぶら下げたりしないでください。
また、ひざなどがツマミに当たらないようにしてください。
誤作動の危険性があります。
- ハンドルに掛けるタイプのチャイルドシートは使用しないでください。
走行中に子供が操作して自転車が転倒する危険性があります。

⚠ 注意

- 乗車の前に必ず以下の項目を確認してください。
 - 1) 操作部のツマミが誤作動防止の溝にはまっていて、「開」のマークの横にあること。
 - 2) カンヌキがスポークやタイヤバルブに当たらないところまで引込んでいること。
- ツマミの破損など異常があるときは使用せず、すぐにお店にご相談ください。
- 施錠時には自転車を前後に強く動かさないでください。
前輪のスポークにカンヌキが強く当たり、曲がったり、故障するおそれがあります。
- 操作ツマミは無理に押し戻さないでください。
無理に戻そうとするとワイヤが折れ曲がり正常に動作しなくなるおそれがあります。

❗ 強制

スペアキーは大切に保管してください。また、キーNo.は控えてください。
(スペアキーをご注文する時にキーNo.が必要になります)



リモコンロック（前輪錠）の使いかた

操作のしかた

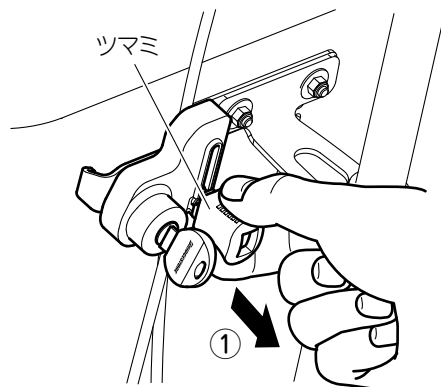
1

カギの閉め方（施錠操作）

〈操作1〉

操作部のツマミを手前（矢印①）に引きながら上（矢印②）へ「カチッ」と音がするまで引上げます。

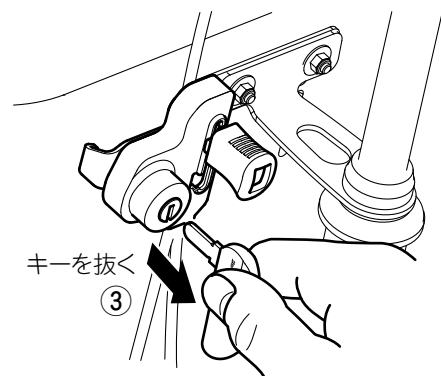
- カンヌキがスポークやバルブ（タイヤに空気を入れる所）に当たって施錠できない場合は、当たらない位置まで前車輪をゆっくり回転させ、もう一度施錠操作をしてください。



〈操作2〉

施錠後はキーを抜き取って（矢印③）保管してください。

- 施錠しないとキーは抜けません。



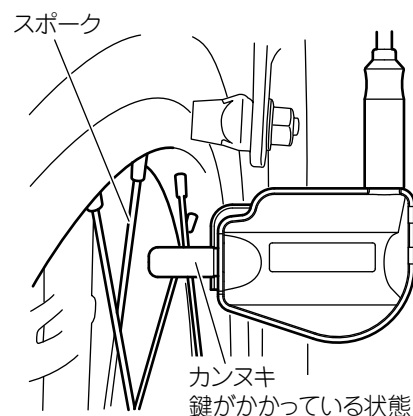
施錠したら以下のことを確認してください。

〈確認1〉

操作部のツマミの位置が「閉」の字のところにあることを確認してください。

〈確認2〉

カンヌキがスポークより車輪の内側に入っていることを確認してください。



リモコンFロック（前輪錠）の使いかた

操作のしかた（つづき）

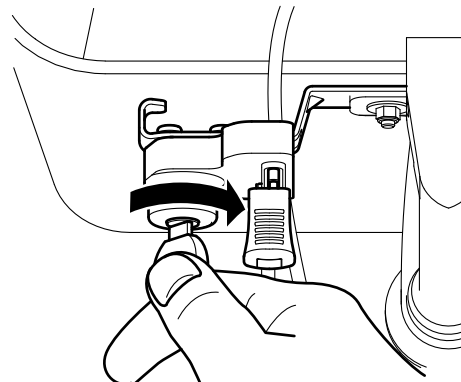
2

カギの開け方（開錠操作）

〈操作1〉

操作部のカギ穴にキーを差込み、キーを時計回りに回して開錠します。

- カンヌキがスポークやバルブに当たって開錠できない場合は、当たらない位置まで前車輪をゆっくり回転させ、もう一度開錠操作をしてください。



開錠したら乗車前に以下のことを確認してください。

〈確認1〉

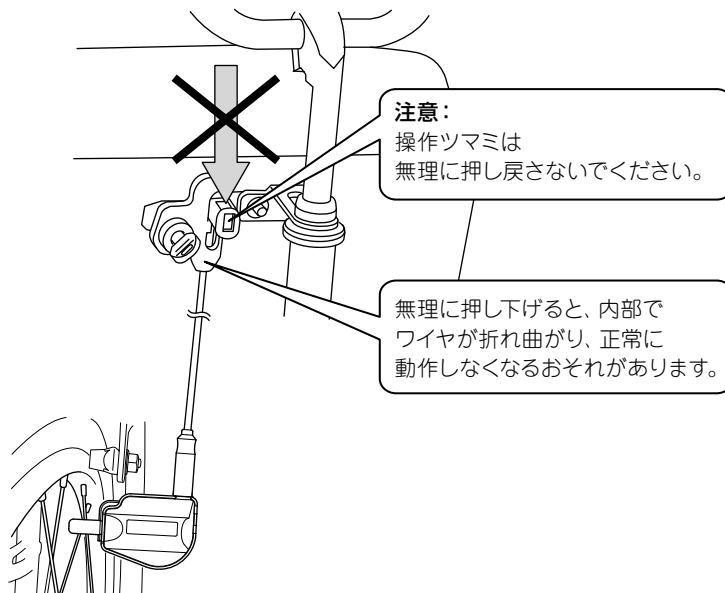
カンヌキがスポーク及びバルブに当たらないところまで引込んでいることを確認してください。

〈確認2〉

操作部のツマミが誤作動防止の溝にはまっていて、「開」のマークの横にあることを確認してください。

⚠ 注意

- 操作ツマミは無理に押し戻さないでください。



- * 自転車にまたがったままカギを開錠する場合などに、カンヌキがスポークに強く接触してカンヌキが戻りきらないことがあります。操作部のツマミもカンヌキに連動していますので所定の位置に戻りません。
このような場合は、車輪（自転車）をわずかに動かすとスポークがカンヌキから離れ、ばねの力で正常に開錠することができます。

お手入れのしかた

各部のお手入れ

⚠ 注意

電動アシスト自転車は日常防水に対応していますが、スチームや水道ホースによる洗車など直接水圧がかかる洗車方法は、電動アシストシステム部やバッテリー部の隙間から内部構造へ浸水し故障の原因となるので避けてください。もし、電動アシストシステム機構が水に浸かった場合は、購入したお店で点検を受けてください。



● 金属部のお手入れ

金属部（スポークなど）は、先に防錆剤を含ませた状態の布でふきます。

⚠ 警告

お手入れの際に、防錆剤やワックスなどの油脂類をブレーキ制動面やタイヤ、リムなどに付着させないように注意してください。油脂類が付着するとブレーキの制動力が低下し、事故につながる危険があります。

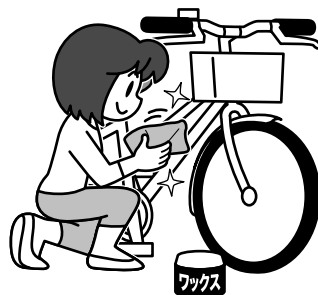


● フレームなどの金属塗装部のお手入れ

金属部分の塗装面は、汚れをきれいに落としてから乾いたタオルにワックスを少量なじませてからみがきます。油分の付着は光沢感をそこなうため、塗装部にはつけないよう注意してください。

⚠ 注意

お手入れの際、ゴム類（タイヤ・ブレーキシューなど）に、絶対にワックスを付着させないでください。ワックスがタイヤ等のゴム類に付着するとヒビ割れの原因となり危険です。

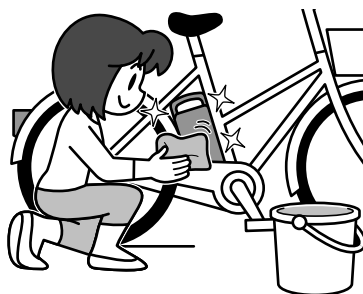


● バッテリー部のお手入れ

バッテリーケースは、水を固く絞ったタオルで汚れをふき取ります。ホース等から放水した水を直接かけないでください。

⚠ 注意

お手入れの際、故障の原因となるため、金属の接点をヤスリで研磨したり、針金などを用いて掃除しないでください。



お手入れのしかた

各部のお手入れ(つづき)

● バッテリーや樹脂カバー類のお手入れ

バッテリーやカバー等の樹脂部分の汚れは、水を固く絞ったタオルなどでしっかりと拭き取ります。

また、バッテリー差込口にゴミやホコリがある場合は、乾いたやわらかい布で拭き取ってください。

⚠ 注意

お手入れの際、ガソリン、灯油、アルカリ性および強酸性のクリーナー、その他の溶剤などはヒビ割れなどの原因になるので付着させないでください。



● 充電器のお手入れ

充電器表面は、鏡面加工で傷つきやすいため、布で軽く空拭きしてください。

● アルミ製リムのお手入れ

アルミ製リムに泥や砂が付着したら、ふき取ってください。(油など汚れのない布を使用してください。)

⚠ 注意

アルミ製リムはステンレス製リムに比べて傷つきやすいので、泥や砂が付着したままだと、ブレーキ作動時にリムが削れたり、リムが汚れやすくなります。

お手入れのしかた

お手入れのしかた

⚠ 警告

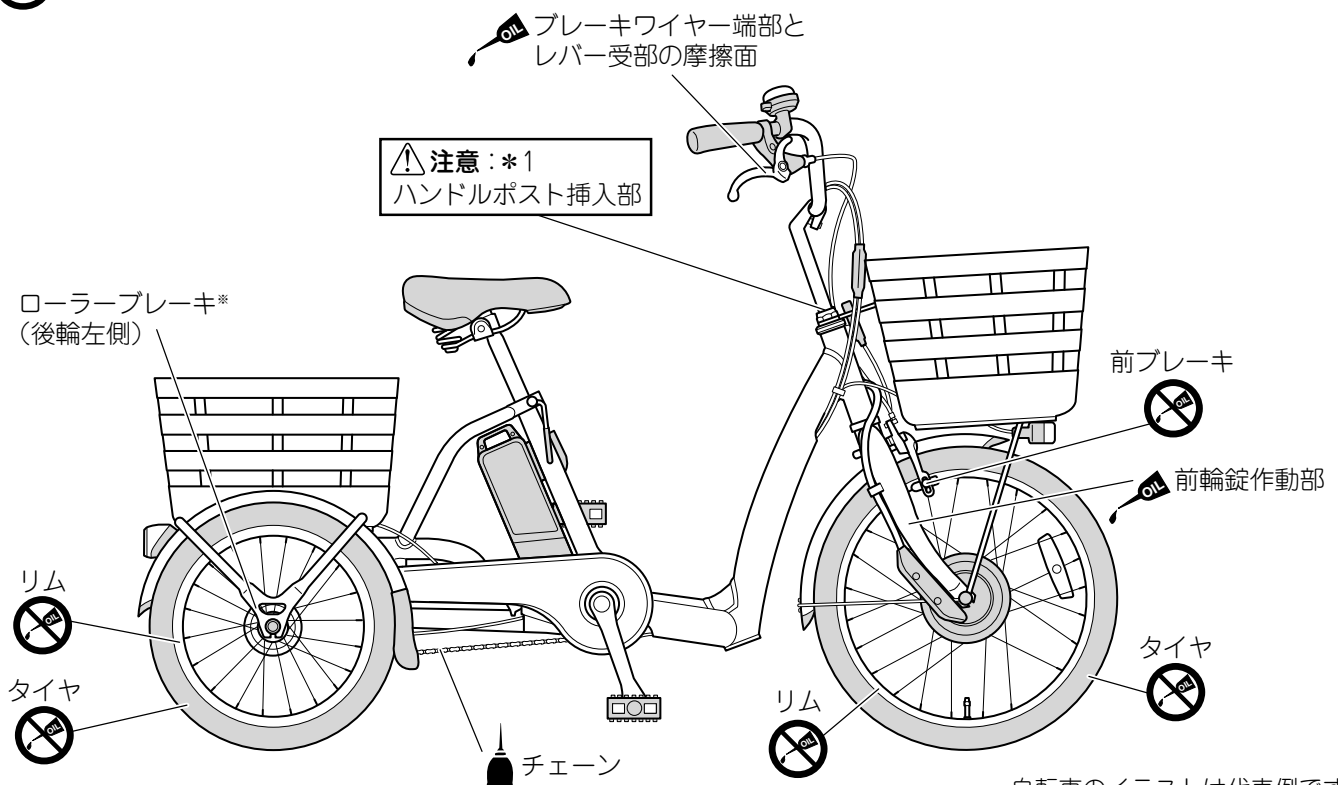
ブレーキの制動面やタイヤ、リムには注油しないでください。ブレーキが効かなくなり、衝突・けがのおそれがあります。

⚠ 注意

- 注油は決められた場所に少量を注油します。多すぎると、ホコリを付着させ、故障の原因になります。
- 注油は自転車用油を使用してください。食用油は使用しないでください。

🔧 マークは注油場所を示します。(1~2ヶ月に1回程度)

🚫 マークは注油禁止場所を示します。



※ローラーブレーキは販売店で専用グリスの補給が必要です。(P90)

- ⚠ 注意：*1 ハンドルポスト挿入部には、潤滑剤(浸透性の油)を注油しないでください。固定力が低下してハンドル操作できなくなるおそれがあります。但し錆びによる固着防止のために、挿入部にグリスを薄く塗布するのは可能です。
- *2 樹脂部品や塗装部品に、シンナー・ベンジンなどの有機溶剤やガソリンなどの石油類薬品、酸性・アルカリ性の洗剤などは使用しないでください。変形、変色や、ひび割れ、塗装がはがれることがあります。

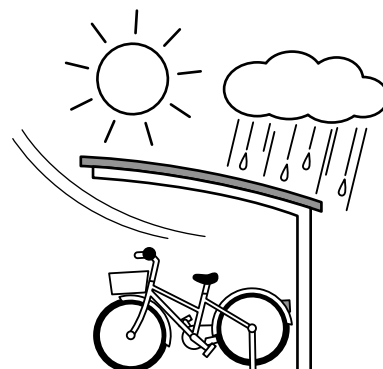
保管のしかた

日々の保管のしかた

- 保管に適した場所を選びましょう。
 - ・ 地面が平らで、安定したところ
 - ・ 湿気が少なく、風通しの良いところ
 - ・ 直射日光を避け、雨ざらしにならないところ
- 保管時はメインスイッチの電源を切りましょう。

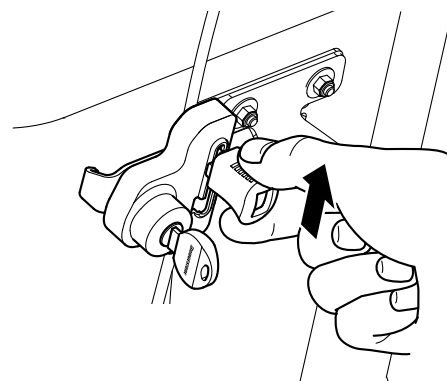
⚠ 注意

メインスイッチの電源を切り忘れると、バッテリー放電が早まります。
その場合、次回乗車時に電池残量が不足し電動アシストシステムが作動できなくなるおそれがあります。



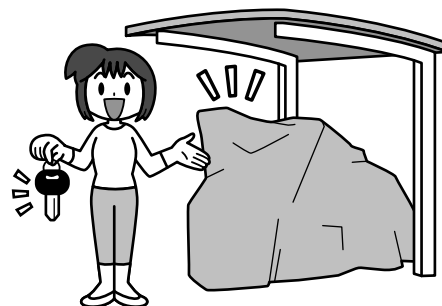
- 前輪錠をかけましょう。

保管するときは、いたずらや盗難を予防するために必ず前輪錠をかけましょう。(P76)



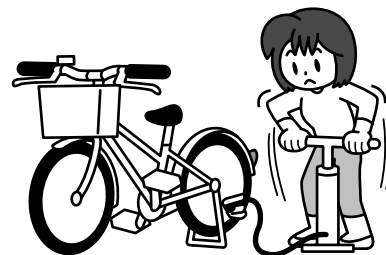
- サイクルカバーをかけましょう。

保管時は、サイクルカバーをかけてほこりなどの異物の付着や水ぬれを防ぎましょう。



- タイヤに十分な空気を入れましょう。

保管時は、タイヤがいたむのを避けるために適切な空気圧にしましょう。



保管のしかた

長期間保管するときのバッテリーの取り扱い

1か月以上の長期間電動アシスト自転車に乗車しない場合、バッテリーの保管は以下の点に注意してください。

- バッテリーは車両から取り外し、室温15～25℃・湿気の少ない室内で保管してください。

⚠ 注意

バッテリーを車両から取り外しておく場合、車両側バッテリー装着部へのほこりなど異物の付着や、水滴付着による金属端子部の錆防止のため、車両にサイクルカバー（別売り）をかけてください。

- バッテリーの残量は、バッテリー残量ランプが2～3灯点灯している状態で保管してください。
- 時々（1か月に1回）、バッテリーの残量を確認してください。
バッテリー残量ランプが1灯点滅の場合、一度充電（30分程）してバッテリー残量の著しい低下を防ぎましょう。

要点

- バッテリー残量が「満充電」または「空」の状態で放置すると、バッテリー早期消耗の原因になります。
- バッテリーは自己放電するので、保管時も少しずつバッテリー残量が低下します。

長期間保管して再使用するとき

1か月以上の長期間保管した後は、必ず使用前日に充電をしてから使用しましょう。（通常より充電に時間がかかる場合があります。）


また6か月以上の保管期間があった場合は、販売店で点検・整備（有料）を受けてから使用してください。

自転車を廃棄するとき

- 自転車を廃棄するときは、廃棄する地区のゴミ分別や回収ルールを守って廃棄してください。
- バッテリーはリサイクル可能な資源です。使用済みバッテリーは販売店にお持ちください。回収しリサイクルします。

もしもこんなときは

ペダルが重い・アシストしない

症状および確認内容	対処方法	ページ
メインスイッチの電源は入っていますか？	電源を入れてください。	55
アシストオフモードになっていませんか？	アシストオフモードの特徴です。アシストは停止しています。 必要に応じて走行モードを切り替えてください。	55
バッテリーは確実に取り付けられていますか？	充電済のバッテリーを確実に取り付けてください。	35
バッテリー残量表示に0(ゼロ)の表示が速い点滅(0.2秒間隔)をしていますか？	バッテリーの容量が0(ゼロ)です。充電をしてください。	49
タイヤの空気圧が低くありませんか？	自転車用空気入れを使用し、適切な空気圧まで空気を入れてください。	43
メインスイッチの電源を入れてから、5分以上自転車が停止した状態が続いていませんか？	自動電源オフ機能が作動しました。再度、電源を入れなおしてください。	55
走行モードランプの一番右側が遅い点滅(0.8秒間隔)をしていますか？  パワーモードの場合	バッテリー、コントローラー、モーター等の温度保護制御が作動したためであり、故障ではありません。 〈高温状態が想定される場合〉 温度が下がれば回復します。電動アシスト自転車への負荷を軽くし、少し休ませてから再度使用してください。 ⇒通常使用している変速位置よりシフトダウンしてご利用いただくと、症状がでにくくなります。 〈低温状態が想定される場合〉 温度が上がると回復します。また、バッテリーを温度15～25℃の室内で保管しておいて使用すると、この症状を軽くすることができます。	62
メインスイッチが異常表示や異常点滅をしていますか？	「メインスイッチが異常表示・異常点滅する」をご参照ください。	88
走行中にメインスイッチの表示が全て消灯した。	電動アシストシステム内部のトラブルが考えられます。ご使用を止め、販売店で点検をお受けください。	—
【電源ボタン】を押しても電源が入らない。		
バッテリー残量表示にSLの表示が3秒間速い点滅(0.2秒間隔)をしていますか？	スリップ制御機能が作動して瞬間的にアシストを停止したためであり、故障ではありません。	70


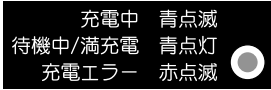
もしもこんなときは

走行距離が短い

症状および確認内容	対処方法	ページ
バッテリーは満充電されていますか？	満充電になるまで充電してください。 バッテリーが充分充電できていないと、走行距離が短くなります。ただし、バッテリーが満充電されていてもバッテリー寿命によってバッテリー容量が低下している場合は、走行距離が短くなります。	50
【リミット充電モード】になっていませんか？	異常ではありません。【リミット充電モード】の特徴です。お客様の電動アシスト自転車の使用環境に応じて充電モードを変更してください。	31
タイヤの空気圧は適正ですか？	適正な空気圧になるようにタイヤに空気を充填してください。 タイヤの空気が減っていると、走行抵抗が大きくなり、走行距離が短くなります。	43
重い変速位置ばかりの使用や、坂道での連続使用をしていませんか？	平地、坂道等の走行条件に合った走行モードと変速シフト位置でご利用ください。 高負荷運転となり、バッテリー消費が早くなります。	51、 58、59
温度が高いところや低いところで使用していませんか？	気温が適温（15～25℃）になると回復します。真夏や真冬はバッテリー性能が落ちることがあります。 特に冬場は使用される直前まで、バッテリーを室内などの温かい場所に保管されることをお勧めします。	28
車輪はスムーズに回りますか？	乗車前点検を実施し、調整が必要な場合は、お買い上げ販売店にご相談ください。 前後ブレーキが掛かった状態など、車輪がスムーズに回らない場合は、走行抵抗が大きくなり、走行距離が短くなります。	40 ～ 47
信号や交差点等、発進、停止を多く繰り返していませんか？	発進時には大きな電力を使用するため、バッテリー消費が早くなります。	—
バッテリーが劣化していませんか？	一充電あたりの走行距離が著しく短くなり、回復する兆しがない、また上記に該当しない場合は、バッテリー交換時期といえます。 バッテリーを交換してください。	28 ～ 30
長期使用のお知らせが表示されていませんか？	引き続きお使いいただけますが、一充電あたりの走行距離が著しく短くなり、回復する兆しがない場合は、バッテリーの交換時期と言えます。 バッテリーを交換してください。	29

もしもこんなときは

充電できない

症状・確認項目	対処方法	ページ
電源プラグはコンセントにしっかり差し込まれていますか？ また、バッテリーと充電器の接続は確実ですか？	一旦各接続部をはずし、再度接続して充電してください。	36
バッテリー残量ランプ（バッテリー側）は点灯していますか？	一旦各接続部をはずして、再度接続しなおし充電してください。	36
充電ランプ（充電器側）は点灯していますか？		
充電中、充電器のランプが青色点灯し、バッテリーのバッテリー残量ランプが5灯同時点滅する。   青色に点灯 5灯同時に点滅	この症状は故障ではありません。バッテリー内部温度が高温あるいは低温の場合、充電の待機状態になります。 バッテリー内部の温度が適温になると待機状態が終了し充電を開始します。	37

異音・異臭あるいは煙がでる

症状・確認項目	対処方法	ページ
電動アシストシステム機構から通常発生しない異音や異臭、煙が発生する。	ただちに使用をやめ、メインスイッチの電源を切り、販売店にご相談ください。	—
充電器から異音や異臭、煙が発生する。	ただちに充電をやめ、コンセントから充電器の電源プラグを外し、販売店にご相談ください。	—

充電器が熱い


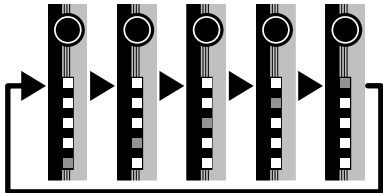

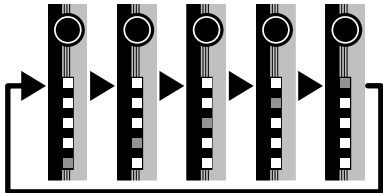

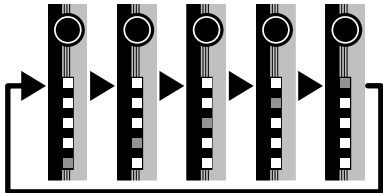
症状・確認項目	対処方法	ページ
手で触ることが可能なレベル。	充電器は充電中に約40～60℃になります。この程度の熱の発生は故障ではありません。	—
熱くて手で触ることが不可能。	ただちに充電をやめ、コンセントから充電器の電源プラグを外し、販売店にご相談ください。	—

もしもこんなときは

バッテリー残量ランプが表示しない

症状・確認項目	対処方法	ページ
バッテリーのバッテリー残量表示ボタンを押してもバッテリー残量ランプが点灯しない。	新品もしくは長期間保管されたバッテリーは、バッテリーのバッテリー残量表示ボタンを押しても表示しません。充電すると表示します。	—
	充電中に、コンセントから電源プラグが、または充電器からバッテリーが外れた可能性があります。⇒一旦各接続部をはずし、温度15～25℃の室内で、再度充電してください。	36
	再度充電してもバッテリー残量ランプが点灯しない場合は、バッテリー残量が空の状態でも長期間保管された等の原因で充電ができなくなっている可能性があります。お買い求めの販売店にご相談ください。	82

バッテリー残量ランプが異常表示・異常点滅する

症状および確認内容	対処方法	ページ								
<p>バッテリーを充電器に接続後及びバッテリー残量表示ボタンを押した後にバッテリー残量ランプに以下のような表示がでる。</p> <table><tr><th>表示内容</th><th>表示時間</th></tr><tr><td rowspan="2"></td><td>バッテリー残量表示ボタン 押下後、約3秒</td></tr><tr><td>充電器接続後、約5秒</td></tr><tr><td rowspan="2"></td><td>バッテリー残量表示ボタン 押下後、約5秒</td></tr><tr><td>充電器接続後、約30秒</td></tr></table>	表示内容	表示時間		バッテリー残量表示ボタン 押下後、約3秒	充電器接続後、約5秒		バッテリー残量表示ボタン 押下後、約5秒	充電器接続後、約30秒	<p>故障ではありません。長期使用のお知らせ機能が作動しています。引き続きお使いいただけますが、一充電あたりの走行距離が短く、アシスト力が弱く感じる場合はバッテリーの交換時期です。販売店でバッテリーの交換をしてください。</p>	29
表示内容	表示時間									
	バッテリー残量表示ボタン 押下後、約3秒									
	充電器接続後、約5秒									
	バッテリー残量表示ボタン 押下後、約5秒									
	充電器接続後、約30秒									



もしもこんなときは

バッテリー残量ランプが異常表示・異常点滅する(つづき)



症状および確認内容	対処方法	ページ						
【リミット充電モード】にて充電完了後、バッテリー残量表示が著しく少ない。	【リミット充電モード】での充電率はバッテリーの温度、劣化状態により変動します。温度15～25℃の室内で、再度充電してください。 なお、充電環境を変えても回復の兆しがない場合は、バッテリー交換時期です。販売店でバッテリーを交換してください。	31、33						
充電完了後、バッテリーのバッテリー残量表示ボタンを押しても5灯全てのバッテリー残量ランプが点灯しない。	【リミット充電モード】に設定されている可能性があります。充電モードを確認してください。 お客様の電動アシスト自転車の使用環境に応じて充電モードを変更することができます。 また、【リミット充電モード】に設定されていない場合は、一旦各接続部をはずし、温度15～25℃の室内で、再度充電してください。 ⇒充電中に、コンセントから電源プラグが、または充電器からバッテリーが外れた可能性があります。	31、33、36						
バッテリー残量ランプの1灯・5灯が点灯する。 バッテリー残量ランプの2～4灯が点灯する。	充電モードの表示・設定変更機能です。 充電器に接続した状態でバッテリー残量表示ボタンを押し続けた場合に、以下のように充電モードを表示します。 バッテリー残量表示ボタンを押していないか確認してください。 <table><tr><th>充電モード</th><th>バッテリー残量ランプの表示</th></tr><tr><td>通常充電モード</td><td><div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div></div></td></tr><tr><td>リミット充電モード</td><td><div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div></div></td></tr></table>	充電モード	バッテリー残量ランプの表示	通常充電モード	<div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div></div>	リミット充電モード	<div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div></div>	31
充電モード	バッテリー残量ランプの表示							
通常充電モード	<div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div></div>							
リミット充電モード	<div><div></div><div></div><div></div><div></div><div></div></div>							

もしもこんなときは

メインスイッチが異常表示・異常点滅する

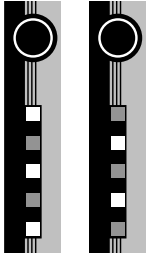
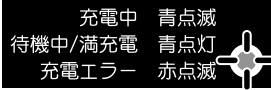
症状・確認項目	対処方法	ページ
<p>アシストはするがメインスイッチのバッテリー残量表示にE4が点灯している。</p> 	<p>車両からバッテリーを取り外し、バッテリー接続端子の汚れを乾いた布や綿棒で取り除いてください。</p> <p>その後、再度バッテリーを取り付けてください。</p> <p>同じ症状が出る場合はご使用を止め、販売店で点検をお受けください。</p>	—
<p>充電したが、メインスイッチのバッテリー残量表示がFLにならない。</p>	<p>【リミット充電モード】に設定されている可能性があります。充電モードを確認してください。</p> <p>【リミット充電モード】に設定されていなかった場合は、一旦各接続部をはずし、温度15～25℃の室内で、再度充電してください。</p>	31、 33、 36
<p>メインスイッチのバッテリー残量表示がE1～E3、E5、E6のエラー表示が点灯している。</p> 	<p>電動アシストシステム内部のトラブルが考えられます。電源をオフにして再度電源を入れなおしてください。</p> <p>電源を入れなおしても同じ症状が出る場合は、ご使用を止め、販売店で点検をお受けください。</p>	62

充電中にランプが異常点滅する

症状および確認内容	対処方法	ページ
<p>充電中に充電器の充電ランプが青色点灯し、バッテリーのバッテリー残量ランプの2灯目と4灯目が同時に点滅する。</p>  <div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="margin-right: 10px;"> <p>充電中 青点滅</p> <p>待機中/満充電 青点灯</p> <p>充電エラー 赤点滅</p> <p>青色に点灯</p> </div>  </div> <p>2灯と4灯目が点滅</p>	<p>バッテリーの保護機能が作動中です。</p> <p>バッテリーが使用できない状態になっていますので、販売店でバッテリーを交換してください。</p>	—

もしもこんなときは

充電中にランプが異常点滅する(つづき)

症状および確認内容	対処方法	ページ
<p>充電中に、充電器の充電ランプが青色点灯し、バッテリーのバッテリー残量ランプが2-4灯目と1-3-5灯目が交互に点滅する。</p>  <p>2-4灯と1-3-5灯が交互に点滅</p>	<p>接続端子の接触不良が考えられます。再度バッテリーを充電器に取り付けてください。それでも直らない場合は、使用を中止しただちに充電器の電源プラグを抜き、販売店で点検をお受けください。</p>	—
<p>充電器の充電ランプが赤色点滅する。</p> 	<p>充電器の端子が短絡していることが考えられます。電源プラグを抜き端子部を清掃してください。それでも直らない場合は、使用を中止しただちに充電器の電源プラグを抜き、販売店で点検をお受けください。</p>	—

オートライトシステムが作動しない

症状および確認内容	対処方法	ページ
<p>メインスイッチの電源は入っていますか？</p>	<p>【電源ボタン】または【モード切替／ライトボタン】を押して電源を入れてください。</p>	60
<p>照度センサーが汚れていませんか？</p>	<p>照度センサー部が汚れていると、周囲の明るさ(照度)を検出しにくくなります。照度センサーについた汚れをふき取ってください。</p>	
<p>照度センサーをカバーなどで覆っていませんか？</p>	<p>照度センサーが周囲の明るさ(照度)を検出できないと、オートライトシステムが正常に作動しません。照度センサーを覆っているもの(カバーなど)を取り除いてください。</p>	
<p>【モード切替／ライトボタン】を長押ししましたか？</p>	<p>故障ではありません。前照灯を手動操作で点灯または消灯させるために【モード切替／ライトボタン】を長押し操作した場合、オートライトシステムは無効になります。メインスイッチの電源を切り、再度電源を入れることでオートライトシステムを有効にすることができます。</p>	

もしもこんなときは

回復充電機能が作動しない

症状および確認内容	対処方法	ページ
メインスイッチの電源は入っていますか？	【電源ボタン】または【モード切替／ライトボタン】を押して電源を入れてください。	—
バッテリーが満充電になっていませんか？	故障ではありません。 バッテリーが満充電のときは、回復充電は働きません。 また、満充電から少し減った状態では回復充電が弱くなる場合があります。	65 ～ 66
温度の高いところや低いところで使用していませんか？	回復充電を受ける容量を残した状態であっても、バッテリーの内部温度が著しく高い若しくは低い場合には、バッテリー保護のため回復充電機能は作動しません。	65 ～ 66

平地の惰性走行が短い

症状・確認項目	対処方法	ページ
惰性走行中に回復充電機能が作動していませんか？	異常ではありません。平地自動回復充電機能の特徴です。 お客様の電動アシスト自転車の使用環境に応じて回復充電機能のモードを変更してください。	67 ～ 69

ローラーブレーキ（後ブレーキ）

症状および確認内容	対処方法	ページ
ブレーキの効きが異常に強すぎる。（急激に効く）	この状態は内部のグリス切れが考えられますので、販売店でローラーブレーキ専用グリスをグリス穴から補給してください。	—
ブレーキの効きが異常に弱すぎる。		
ブレーキをかけたとき、キーキー不快感な音鳴りがする。		

もしもこんなときは

前ブレーキ

症状および確認内容	対処方法	ページ
●ブレーキの効きが異常に弱すぎる。		
ブレーキシューが磨耗している。	ブレーキシューの山の残りが1mm以下になっていたら、販売店でシューの交換を行ってください。	—
ワイヤーに異物が引っかかり、屈折している。	異物を取り除いて、ワイヤーの曲がりを取ってください。	—
泥の付着等によりブレーキ本体の作動異常が発生している。	販売店にご相談ください。	—
ワイヤーの作動抵抗が大きい。	ワイヤーの錆や汚れが原因と考えられます。販売店でブレーキワイヤーを交換してください。	—
●ブレーキレバーを操作したときに、レバーが完全に戻らない。		
ワイヤーに異物が引っかかり、屈折している。	異物を取り除いて、ワイヤーの曲がりを取ってください。	—
泥等の付着によりブレーキ本体の作動異常が発生している。	販売店にご相談ください。	—
ワイヤーの作動抵抗が大きい。	ワイヤーの錆や汚れが原因と考えられます。販売店でブレーキワイヤーを交換してください。	—

定期点検／普通自転車点検整備済みTSマーク

定期点検

電動アシスト自転車の点検・整備は販売店で、自転車安全整備士・自転車技士（自転車組立整備士）、またはそれと同等の技能を有する者により受けてください。

●初回（2ヶ月または100km走行後）点検

お買い上げいただいた電動アシスト自転車は工場では厳密な検査を施した後に出荷されていますが、まれに使用後1～2ヶ月の間に、ボルトなどにゆるみが生じることがあります。

その為、この期間内に電動アシスト自転車をお買い上げいただいた販売店にて点検・整備を受けるようにしてください（有料）。

販売店での点検・整備の際は、電動アシスト自転車と保証書／点検・整備の記録をお持ちください。

また、使用状況などにより部品の交換が必要な場合は、有料となることがありますので、あらかじめご相談ください。

●定期点検

いつまでも電動アシスト自転車を大切にお乗りいただくために、異常を感じた場合、またはお買い上げいただいてから6ヶ月、12ヶ月、その後は1年経過する毎に販売店で定期点検を受けましょう（有料）。

消耗した部品や、異常箇所をそのままにして電動アシスト自転車をお乗りになると大変危険です。

定期点検をすることで、電動アシスト自転車の優れた性能をより長い間引きだしていただけます。

また、定期点検を実施していない場合には保証の適用を受けられないことがありますので、あらかじめご了承ください。

⚠ 警告

- ブレーキは最も重要な機構のひとつです。乗車前の点検に加え、販売店で定期的に点検を受けるようにしてください。
- ブレーキワイヤは消耗品です。異常がなくても2年に1度は交換してください。

普通自転車点検整備済みTSマークについて（新車には貼付されていません）

自転車安全整備店でTSマークの貼り付けを依頼して、点検・整備を受け、基準に適合した安全な自転車にこのマークを貼ることができます。（有償です。）

このマークには、傷害保険と賠償責任保険が付帯されており、保険の有効期間中であれば、万一の事故の際に利用することができます。

詳しくは、お買い求めの販売店、または弊社お客様相談室までご相談ください。



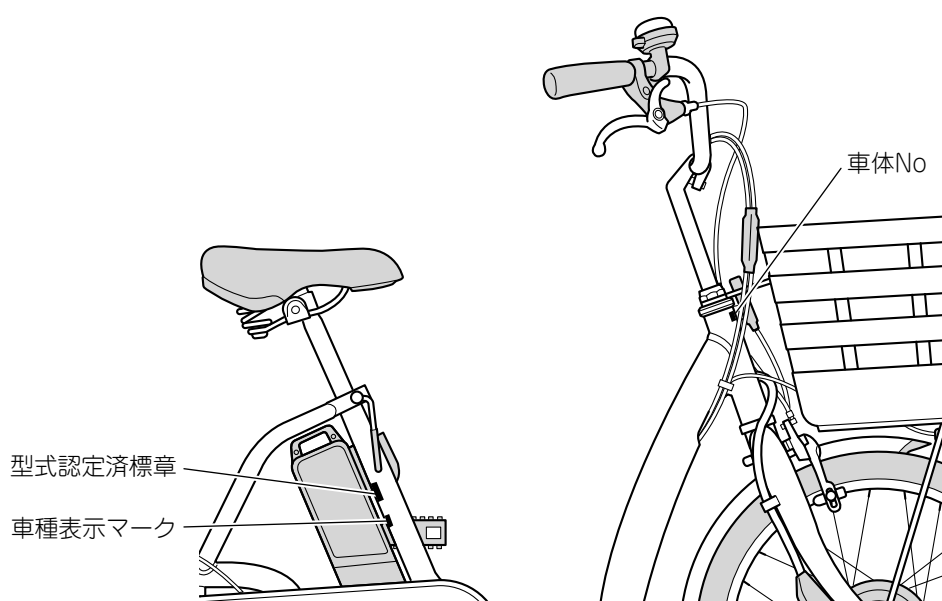
保証制度／基準適合標章（TSマーク）

保証制度

ご購入いただいた電動アシスト自転車に採用される純正部品に、不具合（材質または製造上の）が発生した際は、保証書（ロビンフッド手帳）に記載された条件に沿って、無料で対象の部品交換または補修による修理を行います。詳細は保証書をご覧ください。

注）但し、消耗品は除きます。

マークの貼付・表示位置




※型式認定標章はバッテリーを外さないと読めません。

※車体No（番号）は、防犯登録する時に使います。

型式認定済標章（新車に貼付してあるTSマーク）

このマークは、道路交通法に定められた規定に適合し、国家公安委員会の認定を受け、型式認定を取得した車両にのみ表示が許されます。このTSマークが貼付された電動アシスト自転車は、安心してご使用いただけます。

注）このTSマークには、保険は付帯しません。

ブリヂストンサイクル株式会社	
	
駆動補助機付自転車 型式認定番号	交
普通自転車 型式認定番号	交
防犯登録時は、ヘッドパイプ上側の 打刻番号を使用してください。	

防犯登録／盗難補償／保険について

防犯登録について

法律により防犯登録は義務づけられています。かならず実施してください。

● 制度の意義

防犯登録は「自転車の安全利用の促進及び自転車等の駐車対策の総合的推進に関する法律」第12条第3項により自転車を保有する方に義務づけられています。これは、多発する自転車の盗難、さらに盗難自転車が路上に放置された場合など、市民生活に支障を来たす状況を改善することを目的に制定されました。

● 登録のしかた

防犯登録は自転車防犯登録所（例えば、お買い上げの販売店など）にて行うことができます。尚、防犯登録は有料です。

● 自転車が盗難にあった場合

最寄の警察署に盗難届けを出してください。この時、防犯登録ナンバーが必要になります。防犯登録ナンバーが不明の場合、盗難された自転車が見つかりにくくなります。防犯登録カード（お客様控え）は大切に保管してください。

盗難補償について

● 盗難補償を受けるためには、盗難補償書に記載の期日までに、次のいずれかの加入手続きが必要です。

①弊社ホームページから「オンライン登録」で登録する

②ロビンフッド手帳に記載のQRコードから携帯電話で「オンライン登録」する

③ロビンフッド手帳のブリヂストンサイクル盗難補償カード（ハガキ）に必要事項を記入の上投函する

※お買い上げ日欄が未記入であったり、不実の内容を記入された場合には盗難補償は受けられません。

※弊社からお客様へ、ブリヂストンサイクル盗難補償カード（ハガキ）受け取り完了のご連絡は差し上げられませんのでご了承ください。

● 上記、加入手続き前に遭われた盗難に関しては、補償が受けられないのでご注意ください。

● 詳細は盗難補償書をご覧ください。

保険について

● 万が一の自転車での事故に備えて、対人対物賠償保険に加入することをおすすめします。

また、自動車保険等の一部保険では、自転車での事故までをカバーしている場合がありますので、現在加入されている保険がある方は、加入されている保険の内容を確認ください。（なお、弊社では保険の取り扱いはありません）

スペアキーについて

スペアキーのご注文は、お買い上げ店にキーNoと車種をご指定の上ご注文ください。

⚠ 注意

- ご注文からスペアキーの納品には10日以上かかる場合があります。
- 部品の生産終了や在庫切れにより、対応できなくなる場合があります。
- スペアキーは元のキーに対してつまみの形状などが異なる場合があります。
- お客様の自転車の車体Noなどから、キーNoを弊社で調べることはできません。
(弊社には1台ごとのキーNoデータはありません。)
- 紛失する前にキーNoを控えておくことをおすすめします。(裏表紙)
- キーNoがわからないと、スペアキーは注文できません。
- 防犯上の理由からスペアキーの対応ができない場合があります。
- 自転車のスペアキーは、一般に鍵屋さんでは作れません。

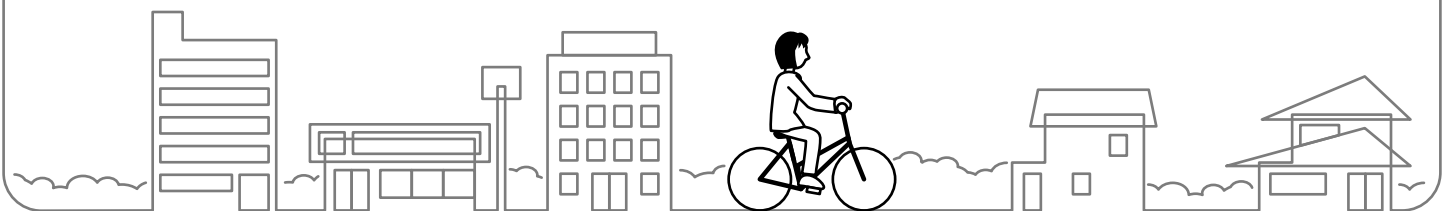
点検・整備の記録

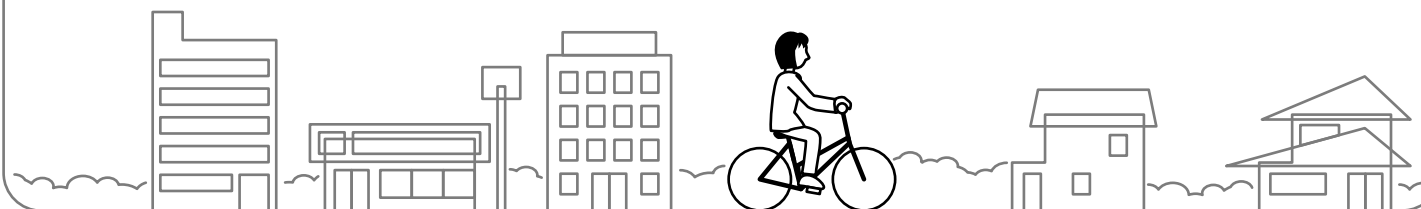
有料 点検・整備項目

V=異常なし A=調整・注油 △=修理 ×=交換 T=締付 C=清掃・その他

	点検項目	初回	6か月	1年	2年	3年	4年	5年
車両本体	車体の長さや幅、フレームと前ホークの外観と取付状態							
	ハンドルの固定、回転とがたつき							
	ブレーキ各部の作動・固定、注油の有無（注油不可の場所は除く）							
	ローラーブレーキの鳴き、振動の有無（1年毎に専用グリスを充てん）							
	ブレーキの効きと各部（シュー、リムなど）の摩耗状態、ブレーキの調整							
	ベルの固定と鳴り具合							
	前照灯の固定と点灯動作							
	前後の車軸の締付とがたつき							
	リムの変形と振れ、スポークの変形・張り具合							
	タイヤの固定、摩耗、損傷、空気圧							
	ペダルとギヤクランクの固定と回転具合							
	フリーホイールの回転と注油の有無							
	チェーンの張り汚れ、摩耗・クラックの有無							
	変速機の取付と作動							
	ロックキーの取付状態							
	前後のドロヨケとチェーンケースの取付状態							
	リフレクタ（反射板）の取付と汚れ、損傷（自動点滅ソーラーテールは作動を含む）							
	サドルの取付と位置							
	バスケットの取付と位置							
電動アシストシステム機構	電動アシストシステム各部の取付状態と作動							
	配線接続部の外れや損傷							
	モーターやトルクセンサーからの異音							
	カバー等の取付状態							
	充電器の電源コードの異常や損傷							
	メインスイッチとバッテリーのランプ表示							
	バッテリーの取付と固定、バッテリーロックの作動							
	バッテリーの消耗							

■実施年月日	・ ・	・ ・	・ ・	・ ・	・ ・	・ ・	・ ・
■実施者氏名	⑩	⑩	⑩	⑩	⑩	⑩	⑩



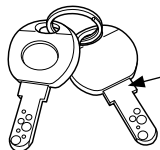


お買い上げいただいた電動アシスト自転車の記録

●キーNo _____

※スペアキーをご注文する時にはキーNoが必要ですので、お客様が記録しておいてください。

※スペアキーのご注文はお買い上げの販売店へご相談ください。



キーNoはここにあります。

●防犯登録番号 _____

※防犯登録票より転記してください。

●車体 No _____

※表示場所は P93 参照。

バッテリーと充電器販売のご案内

● リチウムイオンバッテリーB200

注文番号：P5569 (ブラック)

● リチウムイオンバッテリーB300

注文番号：P6005 (ブラック)

● リチウムイオンバッテリーB400

注文番号：P6156 (ブラック)

● リチウムイオンバッテリーB400

注文番号：P6475 (ホワイト)

● 充電器

注文番号：P5568

サービスの実施

点検・修理をはじめ、サービスのご相談など、ご購入いただいたお店にてお受けいたします。

お買い上げいただいた販売店

ブリヂストンサイクル株式会社

〒362-8520 埼玉県上尾市中妻3丁目1-1

お客様相談室

受付時間：9:00～17:00

(土・日・祝日及び弊社指定休日は休み)

電 話：☎ 0120-72-1911、FAX：048-772-2340
(国際電話・インターネット電話でのご利用はできません。)

IA01-605
21, I